

**平成 24(2012)年度
事業報告書**

学校法人 東 洋 大 学

1. 法人の概要

(1) 建学の理念

建学の精神

「諸学の基礎は哲学にあり」「独立自活」「知徳兼全」

東洋大学の教育理念

【自分の哲学を持つ】

多様な価値観を学習し理解するとともに、自己の哲学(人生観・世界観)を持つ人間を育成する。

【本質に迫って深く考える】

先入観や偏見にとらわれず、物事の本質に迫る仕方で、論理的・体系的に深く考える人間を育成する。

【主体的に社会の課題に取り組む】

社会の課題に自主的・主体的に取り組む、よき人間関係を築いていける人間を育成する。

東洋大学の心

【他者のために自己を磨く】

自分を磨くのは、人々のためにはたらくことができるようになるためであり、そのことを自覚して学業に励むのが東洋大学の心である。

【活動の中で奮闘する】

現実社会における活動の中にどこまでも前進してやまないのが、東洋大学の心である。

(2) 学校法人の沿革

明治 20 (1887) 年 9 月	井上円了が本郷竜岡町の麟祥院に私立哲学館を創立
明治 32 (1899) 年 4 月	私立京北尋常中学校開設
明治 36 (1903) 年 10 月	私立哲学館大学と改称し、専門学校令により大学部・専門部を設置
明治 38 (1905) 年 5 月	京北幼稚園開園
明治 39 (1906) 年 6 月	私立東洋大学と改称、同年 7 月、財団法人私立東洋大学となる
明治 41 (1908) 年 4 月	私立京北実業学校開設
大正 9 (1920) 年 1 月	私立京北中学校、私立京北実業学校の「私立」の冠称を廃止
3 月	私立東洋大学の「私立」の冠称を廃止
昭和 3 (1928) 年 3 月	大学令による東洋大学の設置を認可される
昭和 23 (1948) 年 4 月	学制改革により、京北中学校、京北高等学校、京北実業高等学校となる
昭和 24 (1949) 年 4 月	学校教育法により新制大学への移行、文学部第 1 部設置(第 2 部は昭和 27 年)
昭和 25 (1950) 年 4 月	経済学部第 1 部(第 2 部は昭和 32 年)、短期大学部第 2 部設置、京北高等学校・京北実業高等学校を合併し、京北高等学校普通科・商業科となる
昭和 26 (1951) 年 3 月	私立学校法により財団法人私立東洋大学から学校法人東洋大学へ組織変更
昭和 27 (1952) 年 4 月	大学院文学研究科設置
昭和 28 (1953) 年 2 月	京北高等学校普通科・商業科を京北高等学校・京北商業高等学校とする
昭和 31 (1956) 年 4 月	法学部第 1・2 部設置
昭和 34 (1959) 年 4 月	社会学部第 1・2 部、大学院社会学研究科設置
昭和 36 (1961) 年 4 月	川越キャンパス開設、工学部設置
昭和 38 (1963) 年 4 月	附属姫路高等学校、附属南部高等学校開設、短期大学部第 1 部設置
昭和 39 (1964) 年 4 月	附属牛久高等学校開設、通信教育部、大学院法学研究科設置

昭和 40 (1965) 年 4 月	大学院工学研究科設置
昭和 41 (1966) 年 1 月	東洋大学短期大学部を東洋大学短期大学に改称
4 月	経営学部第 1・2 部設置
昭和 47 (1972) 年 4 月	大学院経営学研究科設置
昭和 51 (1976) 年 4 月	大学院経済学研究科設置
昭和 52 (1977) 年 3 月	附属南部高等学校閉校
4 月	朝霞キャンパス開設
昭和 62 (1987) 年 10 月	東洋大学創立 100 周年記念式典を挙行
平成 2 (1990) 年 4 月	井上円了記念学術センターを設置
平成 9 (1997) 年 4 月	板倉キャンパス開設、国際地域学部、生命科学部設置
平成 13 (2001) 年 4 月	大学院国際地域学研究科、大学院生命科学研究科設置
平成 14 (2002) 年 3 月	東洋大学短期大学閉校
4 月	京北商業高等学校を京北学園白山高等学校に改称
平成 16 (2004) 年 4 月	専門職大学院法務研究科(法科大学院)設置
平成 17 (2005) 年 4 月	ライフデザイン学部設置
11 月	白山第 2 キャンパス開設
平成 18 (2006) 年 4 月	大手町サテライト開設、大学院福祉社会デザイン研究科設置
平成 19 (2007) 年 4 月	大学院学際・融合科学研究科設置
平成 21 (2009) 年 4 月	工学部を再編し理工学部を設置、総合情報学部設置
平成 23 (2011) 年 4 月	学校法人京北学園を法人合併(京北高等学校、京北中学校、京北学園白山高等学校、京北幼稚園が併設校となる) 総合スポーツセンター開設
平成 24 (2012) 年 11 月	東洋大学創立 125 周年記念式典を挙行

(3) 設置する学校・学部・学科等

設置する学校	開校年月	学部・研究科・課程	摘要
東洋大学	明治 20(1887)年 9 月 私立哲学館として創立	文学部、経済学部、経営学部、 法学部、社会学部、理工学部、 国際地域学部、生命科学部、ラ イフデザイン学部、総合情報学 部 文学研究科、社会学研究科、法 学研究科、経営学研究科、工学 研究科、経済学研究科、国際地 域学研究科、生命科学研究科、 福祉社会デザイン研究科、学 際・融合科学研究科 専門職大学院法務研究科	昭和 24(1949)年 4 月 新制大学へ移行
東洋大学附属姫路 高等学校	昭和 38(1963)年 4 月	全日制 普通科	
東洋大学附属牛久 高等学校	昭和 39(1964)年 4 月	全日制 普通科	

京北高等学校	明治 32(1899)年 4 月 京北尋常中学校として 創立	全日制 普通科	昭和 23(1948)年 4 月 新学制により高等学 校へ移行
京北中学校	明治 32(1899)年 4 月 京北尋常中学校として 創立		昭和 23(1948)年 4 月 新学制により新制中 学校へ移行
京北学園白山高等 学校	明治 41(1908)年 4 月 京北実業学校として創 立	全日制 商業科	昭和 23(1948)年 4 月 新学制により商業高 等学校へ移行
京北幼稚園	明治 38(1905)年 5 月 開園		

(4) 学校・学部・学科等の学生数の状況

学部 (第 1 部)

(単位:人)

学部名	入学定員数	収容定員数	入学者数	学生数	卒業生数	
					9月卒業	3月卒業
文学部	770	3,080	918	3,757	-	837
経済学部	575	2,300	690	2,849	34	649
経営学部	670	2,680	802	3,355	40	783
法学部	500	2,000	598	2,433	-	534
社会学部	550	2,200	671	2,702	-	706
工学部	-	-	-	377	108	120
理工学部	700	2,800	776	3,229	-	588
国際地域学部	490	1,850	556	2,105	6	428
生命科学部	300	1,200	355	1,420	7	328
ライフデザイン学部	500	2,000	578	2,305	9	536
総合情報学部	260	1,040	289	1,249	-	389
計	5,315	21,150	6,233	25,781	204	5,898

学部 (第 2 部)

(単位:人)

学部名	入学定員数	収容定員数	入学者数	学生数	卒業生数	
					9月卒業	3月卒業
文学部	150	640	150	653	-	124
経済学部	150	610	142	642	7	121
経営学部	110	450	106	479	7	96

法学部	120	500	117	505	-	119
社会学部	175	750	147	713	-	158
計	705	2,950	662	2,992	14	618

第1部・第2部合計	6,020	24,100	6,895	28,773	218	6,516
-----------	-------	--------	-------	--------	-----	-------

学生数は平成24(2012)年5月1日現在の数

工学部は平成21(2009)年4月理工学部へ名称変更

第2部社会学部は3年次編入学定員10人あり

大学院（博士前期・修士課程）

（単位：人）

研究科名	入学 定員数	収容 定員数	入学者数		学生数	修了者数	
			10月入学	4月入学		9月修了	3月修了
文学研究科	64	128	0	41	81	-	25
社会学研究科	22	44	0	9	25	0	12
法学研究科	20	40	0	22	42	0	16
経営学研究科	40	80	0	34	86	3	43
工学研究科	85	170	4	54	147	3	71
経済学研究科	40	80	6	22	66	4	18
国際地域学研究科	25	50	1	9	43	5	20
生命科学研究科	15	30	0	28	49	0	19
福祉社会デザイン 研究科	70	140	0	33	96	3	39
学際・融合科学 研究科	12	24	0	6	13	-	4
計	393	786	11	258	648	18	267

大学院（博士後期課程）

（単位：人）

研究科名	入学 定員数	収容 定員数	入学者数		学生数	修了者数	
			10月入学	4月入学		9月修了	3月修了
文学研究科	27	81	0	11	48	-	6
社会学研究科	8	24	0	4	27	0	3
法学研究科	10	30	0	1	13	1	0
経営学研究科	13	33	0	1	14	0	2
工学研究科	24	72	1	4	14	1	2
経済学研究科	3	9	0	1	5	0	2
国際地域学研究科	8	21	0	3	12	1	0
生命科学研究科	4	12	0	1	6	0	1

福祉社会デザイン 研究科	14	42	0	6	57	0	3
学際・融合科学 研究科	4	12	0	3	20	1	3
計	115	336	1	35	216	4	22

学生数は平成 24(2012)年 5 月 1 日現在の数

専門職大学院

(単位：人)

研究科名	入学定員数	収容定員数	入学者数	学生数	修了者数	
					9月修了	3月修了
法務研究科	40	120	8	37	3	10

学生数は平成 24(2012)年 5 月 1 日現在の数

通信教育部

(単位：人)

学部名	入学 定員数	収容 定員数	入学者数		学生数	卒業者数	
			10月入学	4月入学		9月卒業	3月卒業
文学部	1,000	4,000	30	112	796	10	34
法学部	1,000	4,000	8	42	300	4	11
計	2,000	8,000	38	154	1,096	14	45

学生数は平成 24(2012)年 5 月 1 日現在の数

附属高等学校等

(単位：人)

学部名	入学定員数	収容定員数	入学者数	生徒(園児)数	卒業(卒園)者数
附属姫路高等学校	600	1,800	393	1,210	463
附属牛久高等学校	535	1,605	555	1,632	509
京北高等学校	250	750	90	357	157
京北学園白山高等学校	200	600	66	341	188
京北中学校	120	360	37	108	33
京北幼稚園	35	105	35	106	36
計	1,740	5,220	1,176	3,754	1,386

生徒(園児)数は平成 24(2012)年 5 月 1 日現在の数

附属姫路高等学校の募集定員は 400 人

京北高等学校の募集定員は 160 人

京北学園白山高等学校の募集定員は 160 人

京北中学校の募集定員は 90 人

(5) 役員の概要

定数 理事 16名～22名、監事 4名

(平成25(2013)年3月31日現在)

区分	氏名	常勤・非常勤の別	摘要
理事長	福川 伸次	常勤	平成24(2012)年12月理事就任(再任) 同 理事長就任
常務理事	田淵 順一	常勤	平成24(2012)年12月理事就任(再任) 同 常務理事就任(財務・経営企画担当)
常務理事	松尾 友矩	常勤	平成24(2012)年12月理事就任(再任) 同 常務理事就任(総務・広報・初等中等教育担当)
常務理事	大熊 廣一	常勤	平成24(2012)年12月理事就任(再任) 同 常務理事就任(教学担当)
常勤理事	神林 新	常勤	平成24(2012)年12月理事就任(再任) 同 常勤理事就任
理事	安斎 隆	非常勤	平成24(2012)年12月理事就任(再任)
理事	金子 光一	常勤	平成24(2012)年12月理事就任(新任)
理事	金子 律子	常勤	平成24(2012)年12月理事就任(新任)
理事	熊谷 一雄	非常勤	平成24(2012)年12月理事就任(再任)
理事	熊田 裕之	常勤	平成24(2012)年12月理事就任(新任)
理事	小嶋 正稔	常勤	平成24(2012)年12月理事就任(新任)
理事	竹村 牧男	常勤	平成24(2012)年9月理事就任(再任) (東洋大学長、学長たる理事)
理事	寺田 信幸	常勤	平成24(2012)年12月理事就任(新任)
理事	戸田 俊太郎	非常勤	平成24(2012)年12月理事就任(再任)
理事	中村 平	非常勤	平成24(2012)年12月理事就任(再任)
理事	針替 淳行	非常勤	平成24(2012)年12月理事就任(再任)
理事	半田 久米夫	非常勤	平成24(2012)年12月理事就任(再任)
理事	廣瀬 和喜	非常勤	平成24(2012)年12月理事就任(再任)
理事	藤田 耕三	非常勤	平成24(2012)年12月理事就任(再任)
理事	森 政春	常勤	平成24(2012)年12月理事就任(新任)
理事	森田 重則	非常勤	平成24(2012)年12月理事就任(再任)
監事	安藤 昌弘	非常勤	平成24(2012)年10月監事就任(再任)
監事	清野 直志	非常勤	平成24(2012)年11月監事就任(新任)
監事	田中 哲夫	非常勤	平成24(2012)年10月監事就任(再任)
監事	油井 貫行	非常勤	平成24(2012)年10月監事就任(新任)

(6) 評議員の概要

定数 51名～63名

(平成25(2013)年3月31日現在)

青木 辰司	旭 貴朗	阿部 利雄	安藤 良顕	飯塚 和夫
石坂 康倫	石水 勲	泉山 元	今成 昭	井村 睦昭
遠藤 隆二	大場 善次郎	大山 隆玄	岡崎 涉	岡田 裕
小川 芳樹	奥野 正晴	小澤 孝	加藤 建二	金子 光一
金子 律子	川合 善明	菊田 廣文	喜成 清重	木村 睦
窪園 隆	栗原 実	小畠 正稔	後藤 邦春	小林 恒夫
坂本 健	櫻本 正樹	佐々木 啓介	清水 哲雄	鈴木 貞一郎
関 賢二	関 昭太郎	高橋 一嘉	高橋 儀平	田口 裕也
塚本 正進	津田 正臣	寺田 信幸	戸田 俊太郎	富岡 勝則
中村 平	中山 尚夫	成澤 廣修	西村 信二	根本 安男
橋本 達明	橋本 俊雄	花川 與惣太	半田 久米夫	福川 伸次
藤井 敏信	藤田 耕三	藤本 典裕	古澤 篤輔	松永 安彦
森 政春	吉田 泰彦			

(7) 学校長等の概要

(平成25(2013)年3月31日現在)

学校名等	学長・校長	学校名等	校長・園長
東洋大学	竹村 牧男	京北高等学校	石坂 康倫
附属姫路高等学校	橋本 俊雄	京北中学校	
附属牛久高等学校	遠藤 隆二	京北学園白山高等学校	
		京北幼稚園	清澤 文彌太

(8) 教職員の概要

(平成24(2012)年5月1日現在)(単位:人)

学校名等	教員		職員	
	専任	非常勤	専任	嘱託
東洋大学	663	1,220	362	59
附属姫路高等学校	62	25	6	7
附属牛久高等学校	75	32	6	4
京北高等学校	20	19	7	2
京北中学校	10	3		
京北学園白山高等学校	22	8		
京北幼稚園	6	0	0	0
計	858	1307	381	72

(9) 学生生徒等納付金額一覧

学部(第1部)

(単位:円)

学部名	新入生	2年次以降
文学部(教育学科初等教育専攻を除く全学科)	1,165,000	915,000
文学部(教育学科初等教育専攻)	1,305,000	1,055,000
経済学部	1,165,000	915,000
経営学部	1,165,000	915,000
法学部	1,165,000	915,000
社会学部(社会学科・社会文化システム学科)	1,165,000	915,000
社会学部(社会福祉学科)	1,190,000	940,000
社会学部(メディアコミュニケーション学科)	1,175,000	925,000
社会学部(社会心理学科)	1,180,000	930,000
理工学部	1,570,000	1,320,000
国際地域学部(国際地域学科地域総合専攻を除く全学科)	1,165,000	915,000
国際地域学部 (国際地域学科地域総合専攻(イブニングコース))	720,000	540,000
生命科学部	1,565,000	1,315,000
ライフデザイン学部(生活支援学科・健康スポーツ学科)	1,265,000	1,015,000
ライフデザイン学部(人間環境デザイン学科)	1,445,000	1,195,000
総合情報学部	1,465,000	1,215,000

新入生の金額には入学金 250,000 円を含む(国際地域学科地域総合専攻(イブニングコース)は 180,000 円)

上記の金額には委託されて徴収する費用(校友会費、雨水会費、学生課外活動育成会費)を含む
(国際地域学科地域総合専攻(イブニングコース)は校友会費、学生課外活動育成会費)

学部(第2部)

(単位:円)

学部名	新入生	2年次以降
文・経済・経営・法・社会学部	720,000	540,000

新入生の金額には入学金 180,000 円を含む

上記の金額には委託されて徴収する費用(校友会費、学生課外活動育成会費)を含む

大学院(博士前期・修士課程)

(単位:円)

研究科名	新入生	2年次以降
文学研究科	815,000	545,000
社会学研究科	815,000	545,000
法学研究科	815,000	545,000
経営学研究科(ビジネス・会計ファイナンス専攻 中小企業診断士登録養成コースを除く)	815,000	545,000

経営学研究科(ビジネス・会計ファイナンス専攻 中小企業診断士登録養成コース)	1,425,000	1,155,000
工学研究科	1,075,000	805,000
経済学研究科(公民連携専攻除く)	815,000	545,000
経済学研究科(公民連携専攻)	1,175,000	905,000
国際地域学研究科	815,000	545,000
生命科学研究科	1,075,000	805,000
福祉社会デザイン研究科	815,000	545,000
学際・融合科学研究科	1,075,000	805,000

大学院(博士後期課程)

(単位: 円)

研究科名	新入生	2 年次以降
文学研究科	795,000	525,000
社会学研究科	795,000	525,000
法学研究科	795,000	525,000
経営学研究科	795,000	525,000
工学研究科	1,025,000	755,000
経済学研究科	795,000	525,000
国際地域学研究科	795,000	525,000
生命科学研究科	1,025,000	755,000
福祉社会デザイン研究科	795,000	525,000
学際・融合科学研究科	1,025,000	755,000

本学の学部(通信教育課程を除く) から大学院へ進学する場合は、入学金を免除

本学の大学院博士前期課程から博士後期課程へ進学する場合は、入学金を免除

新入生の金額には、入学金 270,000 円を含む

上記の金額には委託されて徴収する費用(校友会費) を含む

専門職大学院

(単位: 円)

研究科名	新入生	2 年次以降
法務研究科	1,305,000	1,055,000

本学出身者(通信教育課程を除く) は、入学金を免除

新入生の金額には、入学金 250,000 円を含む

上記の金額には委託されて徴収する費用(校友会費) を含む

通信教育部

(単位: 円)

学部名	新入生	2 年次以降
文学部	120,000	100,000
法学部	120,000	100,000

新入生の金額には、入学金 20,000 円を含む

附属高等学校等

(単位：円)

学校名	1年次	2年次	3年次
附属姫路高等学校	900,600	360,500	342,600
附属牛久高等学校	929,800	549,400	501,400
京北高等学校	859,200	493,200	451,200
京北学園白山高等学校	855,600	491,400	451,200
京北中学校	841,200	517,200	517,200

1年次の金額には入学時納入金を含む

上記の金額には委託されて徴収する費用を含む

幼稚園名	年少	年中	年長
京北幼稚園	390,000	300,000	300,000

年少の金額には入園時納入金を含む

2. 事業の概要

(1) ハイライト

東洋大学創立 125 周年記念事業

東洋大学は 2012 年に創立 125 周年を迎え、創立者井上円了の理念に基づき、建学の精神の共有と継承、多様な教育機会の提供に鑑み、記念事業を行いました。

1) 125 周年記念館の建設

125 周年記念館は、地下 1 階・地上 8 階建てで、大きな開口部から外光が差し込むエントランス空間は、透明感のあるアトリウムとなっており、外に開かれた大学を象徴しています。中 2 階を含めた 10 フロアおよび地下 1 階・地上 2 階建ての建物は、学生・教職員・卒業生・一般の方々の利用目的、利用時間、動線を予測し、機能的な配置を実現しています。また、仕立て松をメインとした大きな前庭を備えた 125 周年記念館は、地域や自然との調和はもとより、エコポイドによる自然換気の促進やトップライトによる自然採光など、自然エネルギーの活用、環境との調和も図られています。白山の地に根ざした東洋大学はグローバルな視点で教育・研究の国際化を推進するとともに、大学の機能を広く社会に開放し、地域社会と連携する中で社会的役割を果たしてまいりました。新たに生まれる環境共生緑地帯は、これからも地域社会と共に生き、活動していく、東洋大学の強い意志を表明するものとなります。

2) 創立 125 周年記念式典

2012 年 11 月 23 日、創立 125 周年記念式典を挙行し、招待者約 260 名が列席しました。

式典に先立ち、125 周年記念館の正面に設置された塩川正十郎総長の胸像、および中央エントランスホールに掲げられた陶板美術画の除幕式が行われました。続いて、真新しい 125 記念ホールを会場に、創立 125 周年記念式典が挙行されました。塩川総長、長島理事長による式辞、各方面からの祝辞の後、竹村牧男学長が「未来宣言」を行い、次世代に向かって進む東洋大学の決意を表明しました。

3) 記念事業プロジェクト

「グローバル人財の育成」を実現するために「哲学教育」「国際化」「キャリア教育」を教育の 3 つの柱として推進してまいります。その環境整備のために、以下 5 つのプロジェクトを展開しています。

建学の精神の共有と継承

本学は、創立者・井上円了の建学の精神を継承し、125 年の歴史を歩んでまいりました。今後も円了の足跡を学び、東洋大学の教育・研究活動のあり方を考える機会を設定し、建学の精神を広く社会に伝える教育活動を積極的に実施します。また持続的発展が可能な社会と未来の構築に向け、創立者の教育理念をふまえた哲学をもった人財、そして自らが考え行動できる人財の輩出に努めます。

1. 国際哲学研究センターにおける研究活動
2. 国際井上円了学会の設立
3. 東洋大学井上円了哲学塾（仮称）の設立準備
4. 哲学教育プログラム開発事業

多様な教育機会の提供

東洋大学の前身である「私立哲学館」創立の趣旨には、「余資なく優暇なき者」のために教育の機会を開放する、と書かれています。この理念を受け、近年では各大学で数少なくなった「イブニングコース」（夜間部）通信教育課程を設置するなど、数々の取り組みを行ってきました。

多様な学修と教育の機会を提供し、より開かれた大学づくりを目指しています。

1. ICT を活用した通信教育の実施
- 2.9 学科に及びブニングコース（夜間部）の設置

2013 年 4 月に開設された文学部東洋思想文化学科にもブニングコース（夜間部）を併設
育英事業の展開

創立者・井上円了の理念に基づき、従来から行っている経済支援型や報奨型の育英事業をさらに充実させていきます。特に、成績を重視しながら経済サポートを行う「育英支援型奨学金」の新設に取り組んでいます。これらは返還を必要としない本学独自の「給付型」支援システムで文武に秀でた人物のさらなる成長や、経済的に困窮する学生に対する修学機会の提供を推進します。

1. 創立 125 周年記念スポーツ報奨金制度の設立
2. 海外留学促進奨学金制度の創設
3. 東洋大学奨学基金の充実

総合学園計画の推進と教育研究施設の拡充

学校法人東洋大学は 2011 年 4 月に学校法人京北学園と合併し、1 幼稚園、1 中学校、4 高等学校、1 大学を設置する学校法人になりました。これにより、初等・中等教育機関のさらなる充実を図り、総合学園化を推進しています。各キャンパスにおける教育研究環境の整備・充実はもちろん、教育研究内容に即したキャンパス計画にも積極的に取り組んでいます。

1. 白山キャンパス 125 周年記念館（8・9 号館）が完成
2. 白山キャンパス 既存校舎改修工事が完成
3. 川越キャンパス バイオ・ナノエレクトロニクス研究センター 棟が完成

体育・スポーツ課外活動の充実

箱根駅伝や東都大学野球リーグなど、全国レベルで活躍する本学運動部。知育・徳育・体育による人格形成と、スポーツ文化の充実と強化をさらに推進しています。板倉キャンパスにおいては、教育研究と連動させた新たな部活動も始動しています。

1. 陸上競技部女子長距離部門始動
2. サッカー部女子部門の設置
3. 板倉キャンパス サッカー部女子部門合宿所が完成
4. 川越キャンパス 体育会合宿所 D・E 棟が完成

4) グローバル人材の育成

東洋大学は今、「国際化」と「キャリア教育」、そしてその基盤となる「哲学教育」の 3 つを柱に、時代や環境の変化に流されることなく、地球規模の視点から物事をとらえ、自分の未来を切り拓くことのできる「グローバル人材（人という財産）の育成」を目標に掲げています。課題発見力やリーダーシップ、語学力と異文化を理解する力、人生を築くキャリアデザイン力、これらは人や情報やビジネスが国境を超えて展開するボーダーレス社会を生き抜く力であり、その根底には自分らしいものの見方・考え方が欠かせません。3 つの柱は、そのための教育の基本であり、東洋大学は哲学教育を受け継いできた 125 年の伝統をもとに、グローバル人材の育成を使命として推し進め、学生一人ひとりの「一生を、生き抜く力」を育てます。

哲学教育

東洋大学は建学以来、哲学を教育の根幹においてきました。創立者・井上円了が求めた哲学とは、いわゆる「哲学者」を育てることではなく、つねに疑問と好奇心を持ち、一人ひとりが自ら

判断できる力を養うことにありました。今日のように価値観が多様化し、物事の判断がむずかしい時代に、哲学は地球規模の課題を解決する糸口としても、より重要性を増しています。「なぜだろう？」と問いかけ、自ら考える姿勢を養うことは、全ての学びのはじまりであり、生きる力の原点を築きます。

1. 「国際井上円了学会」の発足

創立 125 周年を迎えたことを機に、国際哲学研究センターが中心となって、世界的な視野のもとに多彩な業績を研究し、その全貌を明らかにするために、9 月を期して「国際井上円了学会」を創設しました。

2. 実践的な哲学教育プログラム事業

「自分なりのものの見方・考え方」を持つことがいかに大切かを伝え、『哲学をしよう！考えるヒント 30』と題した、広義の哲学教育ができる実践的な教材の開発・出版を行いました。

国際化

東洋大学では語学力を高める教育プログラムや留学・海外研修プログラムを充実させることで、学生一人ひとりの国際社会人基礎力を伸ばし、世界の舞台で活躍できるグローバル人材の育成をめざしています。

1. 全学生 TOEIC 無料受験

Test of English for International Communication の略で、通称 TOEIC と呼ばれている国際コミュニケーション英語能力テスト。近年、就職活動でも TOEIC のスコアが求められる事例が増えており、全学生に団体特別受験テストの受験機会を提供し、TOEIC を活用した教育を展開しています。

2. SCAT

SCAT(スキャット)は Special Course in Advanced TOEFL の略で、全学部の学生を対象とした英語の「特別教育科目」です。東洋大学と長く学術交流協定を結んでいるモンタナ大学の協力のもと、TESOL(外国人向けの英語教授法)の資格を持つ教員が授業を担当しています。英語圏の大学に留学しても学習や生活に困らない「使える英語力」を習得できます。

キャリア教育

キャリア形成にとって大切なのは自己の確立です。東洋大学では、身に付けた哲学と、世界を知ることで得た視点をもとに、自分を知り、将来の生き方へとつなげるキャリア教育を展開しています。キャリア教育科目やインターンシップなどのキャリアプログラムは、その第一歩です。まず、大学生活の中でやりたいことや、将来の目標を思い描くことから始めて、その先にある社会人としてのキャリアを考え、主体的な人生を歩むための価値観を築いていけるよう取り組んでいます。

1. グローバル・キャリア教育センター Global Career Education Center (GCC)

GCC は東洋大学のキャリア教育の中核を担う存在として、2012 年 4 月に設置されました。これからの時代を主体的に生きる「自立的社会人」を養成するため、建学の精神を礎に、フィロソフィ(哲学・自己探求力)、キャリア(自立力)、グローバル化(国際化)の醸成を柱として、すべての学生が各自のキャリアを構築できるよう支援を行っています。

2. グローバル・キャリア教育センター主催プログラム

GCC では、初年次から学生の発達に沿ったキャリア支援プログラムを提供しています。プ

プログラムの参加によって、学生が興味関心を広げ、様々な場面での自己の能力開発意欲を高める「気づき」と体験・学習を通して自己肯定感を高め、社会へ出ることの自信を持つよう支援しています。

5) イベント行事

創立 125 周年を機に、各種記念行事が行われました。

創立 125 周年記念セミナー・シンポジウム

- ・東洋大学名誉博士ドナルド・キーン博士講演会
2012 年 5 月 26 日 「国際化時代における日本古典文学の可能性」(会場：白山キャンパス 井上円了ホール)
- ・第 7 回 国際 PPP フォーラム
2012 年 8 月 1 日 「自治体再生の切り札 シティ・マネジメントを考える」会場：サンケイプラザ)
- ・国際井上円了学会設立記念公開シンポジウム
2012 年 9 月 15 日 「国際人井上円了 - その思想と行動」(会場：白山キャンパス スカイホール)
- ・国際哲学研究センター主催 国際シンポジウム
2012 年 9 月 16 日 「グローバルな現実に向きあう哲学」(会場：白山キャンパス スカイホール)
- ・『グリム童話』刊行 200 年記念国際シンポジウム
2012 年 10 月 20 日 グリム童話 200 年のあゆみ - 日本とドイツの架け橋として - (会場：白山キャンパス 井上円了ホール)
- ・バイオ・ナノエレクトロニクス研究センター関連 国際シンポジウム
2012 年 11 月 17 日 「豊かな社会・平和な世界を築くための科学・技術・教育の役割」を開催(会場：日経ホール)
2012 年 12 月 7 日・8 日 日本・インド国交 60 周年記念「Advanced Science and Technology」(会場：白山キャンパス 井上円了ホール)
- ・生命科学研究科主催 国際シンポジウム「水・海洋・地球環境 - 俯瞰的に考えるための知的体験」
2013 年 3 月 16 日・17 日(会場：板倉キャンパス 1102 教室、学生食堂)
2013 年 3 月 19 日(会場：白山キャンパス 井上円了ホール)

展示・講演

- ・「東洋大学のあゆみ “ 伝統を未来に 125 ”」
2012 年 5 月 1 日～4 日(会場：文京シビックセンター 展示室 2)
東洋大学の 125 年の歩みと現在の様子や普段は閲覧することができない貴重書、展示物のパネルでの紹介、その他、東洋大学の歴史や創立者・井上円了の紹介などが展示されました。
- ・東洋大学図書館特別展示「存在の謎に挑む 哲学者井上円了」
2012 年 5 月 30 日～6 月 5 日(会場：丸善丸の内本店 丸の内オアゾ)
創立者・井上円了の業績を遺品や著書などによって紹介する第 1 章、円了が生涯を通して研究を続けた妖怪文化に関する資料を展覧する第 2 章、東洋大学図書館が所蔵する貴重古典籍

を幅広く取り上げた第3章の構成で展示を実施しました。

2012年6月3日 講演

「井上円了と勝海舟 - 時代を創った男たち」 三浦節夫 (ライフデザイン学部教授)

「百人一首の裾野のひろがり」 神作光一 (東洋大学名誉教授)

- ・東洋大学図書館特別展示「美と創造の万華鏡」

2012年11月23日 (会場: 白山キャンパス 8号館1階 ラウンジ)

丸善丸の内本店で開催した特別展示から一部構成を変更し、125周年記念式典の来賓、参列者、校友等を対象とした展示を行いました。

- ・東洋大学井上円了記念博物館特別展

「井上円了旧蔵コレクション - 東洋大学創立者が残した「宝物」 -」

2012年10月15日～12月15日 (白山キャンパス 5号館1階 井上円了記念博物館)

日本全国、そして世界中から集められたコレクションの数々を通して、近代日本を代表する哲学者、井上円了の教育・研究活動を振り返りました。

大学学長会議

- ・「今日の大学教育とグローバル人材の育成を考える」

2012年12月15日 (白山キャンパス 井上円了ホール)

現代のグローバル社会における「大学の使命と役割」について国内主要大学の学長と討議し、その成果を広く社会に発信しました。

協定校招聘行事

- ・協定校代表者 (18大学 11カ国 36名が参加) を招聘

2012年11月21日 歓迎レセプション

2013年11月22日 川越キャンパス訪問

2013年11月23日 式典・祝賀会参加

2013年11月24日 都内観光、滞在先東京ドームホテルにて、生命科学部、アジア PPP 研究所、SCAT の取り組み、国際地域学部プレゼンテーション、懇親会を開催

ウィリアム・バトラー・イエイツ展

アイルランド大使館提供の展示イベント「ウィリアム・バトラー・イエイツ展」開催に併せて、アイルランドと東洋大学の文化や大学間交流を発展させるイベントを行いました。

- ・東洋大学名誉博士ドナルド・キーン博士講演会「日本文化とウィリアム・B・イエイツ」と

シンポジウム「ウィリアム・B・イエイツと井上円了の世界」

2012年11月10日 (会場: 白山キャンパス 井上円了ホール)

- ・能楽鑑賞会 ウィリアム・B・イエイツ戯曲 新作能「鷹姫」

2012年11月17日 (会場: 白山キャンパス 井上円了ホール)

- ・展示 2012年10月15日～11月30日 (会場: 白山図書館)

創立125周年記念「Autumn フェス」

学生が企画・運営したイベントで隣同士手首を握りしめた形をキープし、その人数の多さを競う「クラスピングリスト・チェーン」でギネス世界記録に挑戦しました。会場に集まった本学学生・板倉町長をはじめとする近隣住民の方々、1,026名の繋がりが認定され、ギネス世界記録を樹立しました。

2012年10月14日 (会場: 板倉キャンパス 多目的グラウンド)

(2) 東洋大学の事業概要

【教育事業】

「グローバル人材の育成」に向けた3つの柱への具体的な取り組み

1) 哲学教育

創立者・井上円了は、哲学教育を通じて社会の変革に奉仕する人材を育成することを生涯の使命として実践しました。井上円了が伝えた哲学とは、「自ら深く物事の本質に迫って考えることを実践すること」です。多様化する現代社会では、学問的知識だけでなく、問題の発見能力や解決能力が強く求められています。こうした「人間としての力」を養い、「自分なりの考え方や、ものの見方ができるようになる」ことが、哲学教育の真の目的です。「グローバル人材」とは、自分で考え、自分で立ち、お互いが独創性を認めながら、自発的に行動することができる人でもあります。哲学教育とはグローバル時代に必要な力を育むものになるはずです。

哲学教育の具体的な取り組み例

実践的な哲学教育プログラムの開発

実践的な哲学教育を行うための教材『哲学をしよう！-考えるヒント30-』刊行

基盤教育で「哲学」分野の学びを必修化

従来の教養科目を「基盤教育」へと名称変更

基盤教育の柱として「哲学・思想」という分野を新設し、哲学系科目を改めて分類

井上円了の思想や精神といった自校教育科目の展開

全学総合科目を通じた「哲学への誘い」、「妖怪学リニューアル」

インターネットを利用して、白山、白山第2、朝霞、川越、板倉の5キャンパスで同じ授業を同時に受講できるインタラクティブな遠隔講義システムを導入し、「全学総合科目」を開設

プログラムの中には、井上円了が科学的なものの見方を自ら考える第一歩として用いた「妖怪学」を、現代バージョンにした「妖怪学リニューアル」などがあり、本システムを通じ、本学教員が「哲学」「エコ・フィロソフィ」などをテーマにした独自のプログラムを展開

国際哲学研究センターの開設

2011年7月、文科省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業採択を受けた「国際哲学研究センター」を開設

国際井上円了学会の設立

創立125周年記念事業のひとつとして「国際井上円了学会」を設立

2) 国際化

国際社会では、自分の意見をはっきりと持ち、発信できることが当然と考えられています。そのため、本学では「国際化」の取り組みの中で、考える力を養う哲学教育を基本としながら、語学力を高める教育プログラムや留学・海外研修プログラム、語学セミナーなどを充実させ、国際社会人としての基礎力を体得できるようさまざまな試みを行っています。異なる文化の中に飛び込み、多様な人々と対話することで、国際的な視野と世界に向けた発言力が身につきます。世界の中で生きていく時代のなかで活躍できる「人材」を数多く輩出したいと考えています。

国際化の具体的な取り組み例

語学力の強化

全学 TOEIC 無料受験、英語特別教育科目「SCAT」(Special Course in Advanced TOEFL)

学びのフィールドを広げる

「東洋大学海外留学促進奨学金制度」スタート、海外留学、海外ボランティア、海外インターンシップへの参加

国際的な視野を醸成

経営学部の GBC (Global Business Communication) セミナー、国際地域学部の大使リレー講義、ESP (English Special Program for Regional Development Studies) ほか、英語のみで行われる授業、留学・海外研修のための事前講座や、途上国における社会貢献、青年海外協力隊、国際舞台で活躍するビジネスパーソンなどをテーマにし、ゲストスピーカーを招いた講座

研究分野から世界へ発信

日本初の PPP スクール (経済学研究科公民連携専攻) における蓄積をベースに、欧米研究機関と連携するとともに、アジア PPP 研究所 (APPP) を設立し、近い将来に飛躍的な発展が期待される東南アジアにおける PPP を推進

バイオ・ナノエレクトロニクス研究センターの国際拠点化

各種伝統文化講座の実施

文学部主催の能楽鑑賞教室をはじめ、三味線演奏を堪能・体験できる新内節演奏会、聲明公演 (しょうみょうこうえん)

3) キャリア教育

キャリア教育において育まなければならないのは自立心です。社会人には自分で考え、選択できる力が必要です。そのためには豊富な経験に基づく知識や自信、人間関係に対する信頼感をどれだけ蓄積できるかが重要になります。自立心の芽生えをサポートするために、本学のキャリア教育では好奇心やチャレンジ精神を刺激する数々の仕掛けを用意しています。変革の時代の中、テクニカルスキルがすぐに陳腐化する一方で、数値化が難しいパーソナルスキル (創造力や言語力、読解力、協調性など) がさらに重視されています。国際化が進むから言語力を高めるという表層的なことだけでなく、本学の学生には、あらゆる分野の学問を学び、物事の本質を見極めるために「真摯に考える」ことができる、優れた「グローバル人材」の育成を目指します。

キャリア教育の具体的な取り組み例

グローバル・キャリア教育センター

フィロソフィ (哲学)、キャリア (自立心)、グローバル (国際化) という側面から、すべての学生が各自のキャリアを構築できるように支援

全学的な各種プログラムの展開

グローバル・キャリア教育センターが主催する数々の講座は、いずれも全学部対象で年間を通じて実施

国内・海外インターンシップの促進

インターンシップなどのキャリア・プログラムの拡充を図り、国内インターンシップでは、事前・事中・事後の総合プログラムを独自に作成。

正科内に「社会人基礎科目」を設置

2012 年度からのカリキュラムでは、各学部の基盤教育に「社会人基礎科目」を新たに設置し、「社会人基礎学力入門講義」「企業のしくみ」「企業家論」など、1 年生からキャリアを考えさせる科目を必修化。

生徒から学生へ、学生から社会人への「移行期支援」

高校から大学へ、大学から社会へ。この2つの移行期をしっかりとブリッジする移行期(教育)支援を実施。入学直後の受動的な「生徒」から能動的なスタイルが求められる「学生」や「社会人」になるために、さまざまなプログラムやオリエンテーションを用意。

留学生の就職支援

本学で学ぶ留学生に対しては、日本語力や英語力の向上および日本文化や日本の就職活動の理解を深めることを通じ、就職支援を強化。

「東洋大学 自立形成力 アセスメント」の実施

経済産業省が提唱する「社会人基礎力」と、文部科学省が提唱する「学士力」を受けて、東洋大学では全新生に「自立形成力」を測るアセスメントを実施します。社会で求められるジェネリックスキル(汎用的な能力・態度・志向)について、知識を活用して問題解決する力(リテラシー)と経験を積むことで身についた行動特性(コンピテンシー)の2つを測定します。自分自身の現状を把握し、大学生活での学びと多様な活動を主体的かつ効果的に進めるための自己理解のアセスメントです。

R - C A P 適職診断テスト

R - C A Pとは、140職種2万人の社会人データを基に、興味・価値観・志向を測定することで、こういった職場・職種に向いているかを客観的に診断するテストです。

大学の競争力、ブランド力、社会的評価の向上

1) 文部科学省「グローバル人材育成推進事業 タイプB(特色型)」に採択

文部科学省「グローバル人材育成推進事業 タイプB(特色型)」に本学国際地域学部の取り組みが採択され、2012年から2016年度までの5年間にわたりグローバル人材育成事業に係わる補助金を受けることになりました。「グローバル人材育成推進事業」は、国際的な産業競争力の向上や国と国の絆の強化を基盤として、グローバルな舞台に積極的に挑戦し、活躍できる人材の育成を図るべく、大学教育のグローバル化を目的とした体制整備を推進する事業に対して、重点的に財政支援することを目的としたものです。国際地域学部が採択された「タイプB(特色型)」には、全国の国公私立大学から111件(私立大54件)の申請があり、うち31件(私立大15件)が採択されました。本タイプ採択大学においては、今回の対象となる国際地域学部以外の他の学部・研究科等を含めた大学全体のグローバル化推進に貢献する取組の実施が求められます。

2) 文学部教育学科「往還型教育システム(東洋大学モデル)による学士力の育成」

2008年4月、文学部教育学科に初等教育専攻が設置されました。教育学科では、この初等教育専攻の設置にあたり、学生の大学での学びと小学校での体験を有機的に関連づけることの意義を確認し、設置申請書にもその仕組みである往還型教育システムについて具体的に言及しました。そして、この往還型教育システムによる取り組みが、文部科学省の「大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラム」(2009~2011年度)に採択され、3年間の取り組みを2012年3月に最終報告書としてまとめ報告しました。この最終報告書に基づき、2012年度に独立行政法人日本学術振興会の大学教育等推進事業委員会による調査が行われました。調査は、まず各大学等から提出された前記最終報告書に基づく書面調査が行われ、その中から特に優れており波及効果が見込まれると判断される取組として選定された16件の中にこの「往還型教育システム(東洋大学モデル)による学士力の育成」も選ばれ、次いで調査委員による学生へのインタビューも含む現地調査が行われました。

3) 大学の「教育力」に関するアンケート

大学教育の水準を向上させることを目的として、卒業生を対象としたインターネット上でのアンケートを実施しました。

概要：1998年度～2009年度に本学を卒業された方の中から、約18,000名を無作為に抽出して実施
調査内容：大学生生活を振り返っていただいて、本学での生活環境や教育・研究等が、実際に社会に出てからどの程度役に立っているか等

学習支援・環境の整備

1) 法科大学院「特待奨学生」制度

法科大学院では2012年度入学生より、学生の経済的負担を極力軽減し、自学自修に専念できるよう、「特待奨学生」制度を導入しました。本制度は、将来法曹界での活躍が期待される優秀な学生を輩出することを目的としたものです。「特待奨学生」には学費が減免され、さらに学習奨励金が入学後に給付されます。

2) 通信教育課程 3つの改革

通信教育課程において、創立者・井上円了の掲げた「余資なく、優暇なき者」のために学習機会を提供するという東洋大学の前身の哲学館創設時の思いを実現させた形の改革を行いました。

1. スクーリング受講費用や単位認定試験受験費用などを授業料に包括した「定額制授業料」がスタートしました。このような定額制学費の導入は国内でもまれな取り組みで、社会人学生の手続きの簡便さ、ひいては学習継続率の向上も期待できます。
2. 2012年度1年次入学生より、第1部・イブニングコース（第2部）と互換性を高めた新しいカリキュラムがスタートしました。これにより、第1部の学生とイブニングコース（第2部）の学生が相互に授業に参加できるようになり、社会人学生のニーズに合わせた学習環境が整いました。
3. 授業動画が格納されている「microSDカード」を一定期間（25日間）貸出しし、視聴後返却するという方法でのメディア授業を2012年度より導入しました。この方法ではワンセグ携帯電話やワンセグTVなど、ワンセグ録画ができる多くの機器で授業動画が視聴できます。
これにより、通勤などでの「すきま時間」を学習に使うことができ、本学通信教育課程で目指す「いつでも、どこでも、だれでも」という学習機会の提供が実現しました。

3) 被災学生への減免措置

本学では、支援を決定した自然災害による災害救助法適用地域の被災世帯在学学生ならびに入学を希望される方200名に対し、学費等納付金の減免措置を行いました。

支援を決定した自然災害

- ・2011年3月11日に発生した東日本大震災による災害救助法適用地域（対象：2012年度入学生）
- ・2011年7月の大雨による災害救助法適用地域（対象：2012年度入学生）
- ・2012年1月～2月の新潟県の大雪による災害救助法適用地域
- ・2012年5月に発生した突風等による災害救助法適用地域

FDの取り組み

1) 2012年度新任教員FD研修会

新任教員を対象にしたFD研修会は2007年度より実施しており、本年度も、着任後2ヶ月を経過した6月に開催しました。その目的は、本学の教育理念に基づく教育活動からFDへの取組みについて理解し、日頃の教育研究活動に役立てること、新任教員間や先輩教員間の親睦を深めること、学校法人東洋

大学の一員としての認識を共有することです。本年度は新たにミニシンポジウムをプログラムに取り入れ、「東洋大学の風景と教育における実践と課題-大教室授業における苦勞と工夫-」について議論をしました。また、学生からの視点を聞く機会として、東洋大学学生FD研究チームより、「学生が望む授業改善、よい授業とは」についての報告がありました。後半のグループディスカッションでは、このテーマに関する意見交換および、日頃の悩みや疑問点等について議論をしました。

2) 2012年度一般教員FD研修会

2012年10月19日、白山キャンパスにおいて、教職員を対象に2012年度一般教員FD研修会を開催しました。講師には、鈴木典比古氏(公益財団法人大学基準協会専務理事・前国際基督教大学学長)をお迎えし、「グローバリゼーション下における大学教育の質保証～GPAの活用やシラバスの充実などの取組から～」と題する講演をいただきました。講演会は白山キャンパスで開催しましたが、川越・板倉・朝霞キャンパスに、授業配信システムを利用して同時配信し、約100名の教職員が参加しました。

3) 2012年度関東圏FD学生フォーラム

2012年9月17日、白山キャンパスにて「2012年度関東圏FD学生フォーラム」を開催しました。東洋大学、法政大学、青山学院大学、立教大学の学生FDスタッフと教職員で構成される関東圏FD学生連絡会は、「イベント等の開催を通して学生FD活動を活性化させ、学生の主体性と大学教育の向上を目指す」ことを活動の柱の一つにしており、今回この取り組みの一環としてフォーラムを開催しました。当日は、関東圏を中心に50名ほどの学生・教職員が参加して、「受けたくなる、よい授業とは？」という全体テーマのもと、学生、教員、職員が三位一体となって議論を繰り広げました。

125周年事業への学生の参加

1) フォトコンテスト作品募集

東洋大学創立125周年にあたり、東洋大学にまつわる写真とエピソードを公募し、169点の作品が投稿されました。

2) 論文コンテスト

東洋大学のこれまでの実績を踏まえ、伝統を未来に繋ぐ大学を目指すべく論文コンテストを実施し、40点の作品の応募がありました。

就職支援の充実

東洋大学会社説明会～10学部合同就活LIVE～

2013年3月12日、東京国際フォーラムにて東洋大学全10学部の3年生を対象とした「東洋大学会社説明会～10学部合同就活LIVE～」を開催し、約850名の学生が参加しました。本学では、従来より各キャンパス(各学部)において学内会社説明会を実施していましたが、昨年度からはさらに、全学部の学生が参加できる学外会場説明会を開催しています。

活発な課外活動

東北応援プロジェクト(TOP)

2011年度に引き続き、本年度も東北応援プロジェクト(TOP)として、東北各地に学生ボランティアを派遣しました。東日本大震災は未曾有のものとなり、現在もきわめて多くの人手による復興支援が必要とされています。本学としても、これに関わる学生のボランティア活動に対し、本年度も昨年度に引き続き積極的に支援することとし、当該学生に履修科目について不利益が生じないよう、配慮を行いました。

【研究事業】

研究活動の情報発信

1) 国際 PPP フォーラム (創立 125 周年記念行事)

2012 年 8 月 1 日、大手町サンケイプラザにおいて、第 7 回国際 PPP フォーラム『自治体再生の切り札 シティ・マネジメントを考える』を開催しました。当日は自治体関係者の方を含む一般の参加者約 400 名が出席し、「自治体を経営する」という考え方について興味深く耳を傾けました。

2) バイオ・ナノエレクトロニクス研究センター主催 国際シンポジウム (創立 125 周年記念行事)

2012 年 11 月 17 日、東京大手町日経ホールにて、東洋大学 125 周年記念バイオ・ナノエレクトロニクス研究センター主催国際シンポジウム「豊かな社会・平和な世界を築くための科学・技術・教育の役割」が、約 500 名の参加者のもと行われました。

また、2012 年 12 月 7 日・8 日、東洋大学白山キャンパス井上円了ホールにてバイオ・ナノエレクトロニクス研究センターと大学院学際・融合科学研究科、および Indian JSPS Alumni Association 主催による国際シンポジウム「Advanced Science and Technology」が開催され、両日あわせて延べ約 400 名の参加がありました。

今回のシンポジウムは、日本・インド国交 60 周年および本学創立 125 周年記念事業の一環となるもので、インド大使館と日本学術振興会の共催のもと、Deepa Gopalan Wadhwa 駐日インド大使、戸渡速志日本学術振興会理事を招いて開会式が行われました。日本からは 2008 年度ノーベル物理学賞受賞者の小林誠氏、カーボンナノチューブの発見者である飯島澄男氏 (名城大学 / 独立行政法人産業技術総合研究所) が、インドからは R.Chidambaram 博士 (Principal Scientific Advisor, Government of India)、A. Jayakrishnan 博士 (Kerala 大学 学長) が基調講演を行いました。さらに国内外の研究者が最先端科学技術について発表したほか、ポスターセッションでは、日印の若手研究者がナノテクノロジー・バイオテクノロジー・バイオナノ融合分野の研究成果を発表しました。初日の講演終了後には、インド舞踊、そして本学学生による箏 (箏曲研究会) や尺八 (尺八サークル「徒然草」) の演奏が行われ、日印文化の交流を深めました。

3) 国際哲学研究センター主催 国際シンポジウム (創立 125 周年記念行事)

2012 年 9 月 16 日、東洋大学白山キャンパス 2 号館 16 階スカイホールにて、東洋大学国際哲学研究センター主催の国際シンポジウム「グローバルな現実に向きあう哲学」が開催されました。4 名の講演者 (うち 3 人は海外から) を招いての国際色豊かなシンポジウムであり、それぞれの専門分野からテーマに対する提題がなされました。日本語に加え、フランス語・英語でも発表がなされましたが、来場者は同時通訳者による通訳音声レシーバーにて聞くことができるかたちのシンポジウムであり、100 名程度が参加する盛会となりました。

4) 東洋大学学術情報リポジトリ

2012 年 10 月、東洋大学学術情報リポジトリ (<https://toyo.repo.nii.ac.jp/>) を正式公開いたしました。リポジトリとは、論文や研究報告書などさまざまな学術情報を簡単にインターネットに公開できるサービスです。2012 年 7 月 23 日より、学内ネットワークを対象に試験公開をしておりましたが、正式公開により世界中のどこからでもインターネットを通じて論文等のコンテンツをダウンロードできるようになりました。今後、外部サイトとのデータ連携を随時進めていく予定です。データ連携により、さまざまなサイトからリポジトリに登録されているコンテンツへのアクセスが可能になります。

科研費研究会 (情報交換会)

2012年7月31日・2013年2月25日に、本学が幹事校を務める大学知的財産・産学連携担当者ネットワーク主催による「科研費研究会(情報交換会)」を、東洋大学白山キャンパスで開催しました。本研究会は、各大学・機関において科学研究費助成事業(科研費)の事務サポートを行う実務者(職員等)が一堂に会し、適正な研究費の執行・管理体制構築や、研究者の応募サポート等について、意見・情報交換を行うもので、いずれの回も全国20機関・40名を超える担当者が参加しました。

産学官連携

1)「国際産学官連携」人材育成事業(創立125周年記念事業)

2012年9月2日~21日、本学協定校でもあるフィリピンの「サンホセ・レコルトス大学」から2名の工学系教員が来日し、本学川越キャンパス等で研修に参加しました。この研修は、本学の創立125周年事業「アジアのものづくり・人材育成事業」の一環として実施されたもので、フィリピンで『日本のものづくり精神』を教育することを通して、日本独特のものづくり精神を理解した学生の現地日系企業への就職を支援することにより、国際的な枠組みで産学官連携を推進する試みです。また、本事業は、埼玉県を推進する「埼玉・アジアプロジェクト」と連携していることから、研修期間中には県庁を訪問し、埼玉県の県民生活部長等と今後の連携検討を含めた情報交換を行いました。11月には「カラガ州立大学」、「ユリオス大学」から各1名の教員が来日し、同様に3週間の研修・交流を行いました。

2)川越市と東洋大学との連携会議

2012年7月13日、第1回「川越市と東洋大学との連携会議」を東洋大学で、第2回を2013年2月22日川越市立美術館で開催しました。川越市と東洋大学は、教育研究等における協力関係について包括協定を締結し、現在も多方面で連携関係を構築しています。2012年度は川越市の市制90周年、本学は創立125周年を迎え、また川越キャンパスは開設51年目に入り、更なる連携について意見交換すべく、実施されました。川越市より15名、本学より14名が参加し、活発な議論が行われました。

知的財産の活用

知的財産・産学連携推進センターは、広く技術研究開発に役立つ知財実務知識を学んでもらう、知的財産実践セミナーを開催しました。当センターでは、今後も様々な活動を通して、大学の知的財産を社会に発信し、産学連携活動の推進に寄与してまいります。

1)知的財産実践セミナー(板倉)

2012年7月23日、「知的財産実践セミナー」を板倉キャンパスで開催しました。当日は、現場経験も豊富な野原時男・東洋大学知的財産管理アドバイザーが、「中国知的財産問題の現状-脅威の中国パワー~中国との食品知財紛争は解決できるのか?~」と題して、今話題になっている中国の著作権問題を様々な事例をもとに講演を行いました。

2)知的財産実践セミナー(朝霞)

2012年10月6日、「知的財産実践セミナー」を朝霞キャンパスで開催しました。セミナーでは、野原時男・東洋大学知的財産管理アドバイザーが、「これからのデザイン創作者へ-デザインの力と知的創造社会」と題して、これからのデザイン創作者に向けて、デザイン力を知的創造社会で活かしていく為の知的財産権の考え方について事例を交えて紹介しました。

【社会貢献】

大学は、教育と研究を本来の使命としていますが、大学の第3の使命として「社会貢献」が強調されるようになってきています。本学では、1887年の創立時から125年の伝統により培われた「社会教育・生涯学習」の精神に基づき、大学が持っている「知」を広く社会に還元するという社会貢献としての活動に、早くから様々な形で取り組んできました。「学校法人東洋大学行動規範」において「私たちは、常に地域社会への貢献や連携を考え、開かれた学校づくりを行い、社会貢献を教育機関の重要な役割の一つと考え、教育研究の成果を積極的に社会に還元します。」と謳っているとおり、今後も一層の充実を図っていきます。

建学の精神の普及

1) 創立125周年記念事業「東洋大学全国行脚講演会」

東洋大学の創立者であり哲学者である井上円了は、1890年から大連で最期を迎える1919年まで、哲学の普及を目指して国内外を巡回し講演を行いました。その講演数は記録にあるだけでも2,198町村・5,291回にのぼります。そして今日、井上円了の志を継ぐ本学は、大学の講義を全国各地にお届けする「講師派遣」をはじめ、多くの方々に開かれた学びの場を提供する取り組みを積極的に展開してきました。東洋大学は2012年に創立125周年の年を迎え、大きな節目となるこの機に、いま一度、創立者・井上円了の志に立ち返り、「知」をもって社会に貢献すべく、全国行脚講演会を実施し、2013年度も引き続き実施いたします。

全国行脚講演会 in 東京

日 時：2012年6月10日

場 所：東洋大学白山キャンパス（東京都文京区）

聴講者：約400名

全国行脚講演会 in 名古屋

日 時：2012年7月8日

場 所：名古屋国際会議場（愛知県名古屋市）

聴講者：約250名

全国行脚講演会 in 福岡

日 時：2012年8月4日

場 所：福岡ソフトリサーチパーク（福岡県福岡市）

聴講者：約100名

全国行脚講演会 in 仙台

日 時：2012年9月1日

場 所：仙台国際センター（宮城県仙台市）

聴講者：約140名

2) 作品募集「井上円了が志したものは」

東洋大学の創立者・井上円了の大いなる志とは何かを探求すること、円了を探訪し、井上円了の目指した教育とは何かを考え、井上円了の志したものと現在の自分自身を照らし合わせて考察することを目的として作品を募集し、1,188篇の応募がありました。この作品募集は、本学学生を対象とした「東洋大学生の部」、一般の方々を対象とした「一般の部」、附属姫路高等学校、附属牛久高等学校、京北高等学校・京北学園白山高等学校の生徒を対象とした3つの「高等学校の部」の計5部門で行われました。「東洋大学生の部」「一般の部」では、学長を選考委員長とし、高等学校の3部門では、各高等学校長

を選考委員長とした選考委員会をそれぞれ組織し、厳しい審査を経て入賞作品が決定されました。また、優秀賞の中から最も優れた作品には、部門ごとに東洋大学長賞が授与されました。

公開講座

本学では、生涯学習への取り組みとして春期と秋期にエクステンション講座、文化公演、学術講演会、市民大学講座などの公開講座を実施しました。一般の方はもちろん、本学在学学生・卒業生、他大学生など、どなたでも講座に参加することができます。

講師派遣

創立者・井上円了の教育理念でもある「社会教育・生涯学習」の考え方を継承し、大学の持つ「知」を社会へ還元することを目的として講師派遣を行っています。10学部44学科、大学院10研究科、さらに法科大学院を擁する東洋大学は、多様なテーマを用意し、幅広い専門性を持って、社会教育・生涯学習に貢献しています。なお、本事業では、本学が講師の講演料・交通費・宿泊費を負担して実施しています。

地域連携・社会貢献

1) 東洋大学文化講演会

附属高校、併設校が所在する姫路市、牛久市、北区において、社会貢献活動の一環として地域の方々に生涯学習の機会を提供する目的で東洋大学文化講演会を開催しました。

東洋大学文化講演会 in 牛久

日 時：2012年10月13日

場 所：東洋大学附属牛久高等学校（茨城県牛久市）

聴講者：約300名

東洋大学文化講演会 in 姫路

日 時：2012年10月20日

場 所：姫路市民会館（兵庫県姫路市）

聴講者：約200名

東洋大学文化講演会 in 北区

日 時：2012年10月28日

場 所：赤羽会館（東京都北区）

聴講者：約500名

2) 「ステップイヤー制度」

「ステップイヤー制度」とは、イギリスなどで浸透している「ギャップイヤー制度」を参考にした、本学独自の新規事業です。具体的には、休学制度を活用して、長期（1年以内）にわたり学業を離れ、社会貢献活動等に参加する経験を通じて、自分自身の将来について再考する時間を持つ学生を支援するための制度です。2012年12月4日、白山キャンパスにて、シンポジウム「ステップイヤーによる非日常的自己発見への誘い」を行い、約50名が参加しました。開会に際し、竹村牧男学長より「在学中のギャップイヤーであるステップイヤーが日本社会を変えることを期待する」と挨拶があり、続いて、青木辰司社会学部長が基調報告として、地域貢献型教育制度としてのステップイヤーにおける派遣学生と受け入れ自治体等双方にとっての意義と可能性について述べました。その後、派遣されている学生2名が実践報告を行いました。なお、2013年1月15日に2013年度「東洋大学ステップイヤー募集説明会」が開催され、約40名が参加し、4名が応募しました。

(3) 東洋大学附属姫路高等学校の事業概要

教育活動

2013年の創立50周年を節目とし、東洋大学の「哲学教育」「国際化」「キャリア教育」の3つの柱を踏まえた教育を、附属高校である本校も展開すべく次の50年に向けての新しい挑戦を始めています。2011年度には、難関国公立大学現役合格を目指すスーパー特進コースを新設し、単に進学実績の向上だけでなく、大学入学後や社会人になってからも力が発揮できる人材の育成に鋭意取り組んでいます。また、従来の特進コースも1クラスにしぼり、少人数授業等きめ細やかな教育を展開しています。さらに、2012年度からは生徒数の7~8割を占め、学力差の大きい総合進学コースの教育改革にも取り組みました。具体的には、習熟度別クラス編成を採用し、一人ひとりの学力に応じた授業が展開できるよう授業形態・授業内容の見直しを図りました。このような取り組みによって、さらなる学力アップやクラブ活動の充実など、文武両道の伝統の推進を一層加速させています。

大学との連携の充実

恒例になりつつある1年生全員を対象とした「東洋大学見学会」が6月に実施され、附属高校生としての意識と大学への関心が高められました。また、本年度で9年目となったTV会議システムを利用した大学教員による授業や学部・学科説明会が行われました。一般市民向けには本年で3回目となる「東洋大学文化講演会 in 姫路」が10月に実施され、当地域における東洋大学の存在感を一層高めることができました。新企画としては、8月下旬にスーパー特進コース2年生の課題研究旅行(2泊3日)を生命科学部において実施し、生徒にとって貴重な体験となりました。

課外教育

2年目を迎えた1年生スーパー特進・特進コース合同の学習合宿を4月末に実施しました。また、オーストラリアでの海外語学研修も夏休みに実施しました。部活動においては、弓道部・柔道部・ゴルフ部・ソフトボール部が全国大会に、野球部・剣道部・空手道部・写真部が近畿大会に出場しました。

入試広報活動

2011年度はレベルアップのために募集内容・入試制度を変更した影響もあり、募集定員を充足することができませんでしたが、外部からは「東洋大姫路は変わった」という声が増しに大きくなってきています。学校改革3年目の次年度新生は定員を上回り、近年の努力が着実に実りつつあります。大学進学についても12年ぶりに大阪大学合格者ができました。また、難関私大では早稲田3名、上智5名、MARCH2名、関関同立27名が合格しています。

施設設備

附属姫路高校創立50周年を記念し、昨年8月に着工した新校舎棟の第1期新築工事は、本年7月末の竣工を目指し、順調に進めています。5月中旬には5階建ての躯体がほぼ出来上がり、その全景が現れます。また、工事の進捗に併せて最新のインフラや設備関係、内装の仕様等を策定しています。

(4) 東洋大学附属牛久高等学校の事業概要

教育活動

1) 目指す学校像

「目指す学校像」と「育てたい生徒像」を設定し、その具現化に向けて教育活動を展開しています。

人間教育に力を入れ、基礎基本を徹底している学校
変化の激しい社会を逞しく生きる力を育成する学校
個性・能力を伸長させ、進路希望を実現する学校
切磋琢磨し、認め合い支え合う愛校心の強い学校
魅力ある教育活動を行い、地域社会に貢献する学校

2) 校内研修会の充実

「目指す学校像」を具現化するため、求められている学校像と教師像 授業改善と授業力向上
HR 指導と教育活動 カウンセリングマインドを生かした指導 裁判事例を通じた体罰・いじめ問題の
対応 3 年間の教育計画などのテーマで研修を実施し、講師を含め全教職員の意識改善と資質向上に努
めています。

3) 進路指導の充実

進路部の作成した進路指導計画に従い、学年及び HR 担任がそれぞれ指導計画を作成して実施する仕組
みを整え、1 年では三者面談、キャリア講演会など、2 年ではコラム要約、小論文作成等のコミュニケー
ション能力の育成など、3 年では英語検定、TOEIC Bridge、指定校推薦者のセンター試験の全員受験など
を実施しました。

4) 確かな学力の向上

本校生徒の現状分析を行い、授業時間の確保と日常的教育活動の見直し改善等を行うとともに、教科会
を充実させ、研究授業を実施し指導力の向上に努めています。また、朝の読書や家庭学習などを励行させ、
基礎学力の定着を図るようにしています。

5) 国際理解教育の推進

国の絆プロジェクトに積極的に参加し、8 月には中国に 40 名、11 月と 1 月にはアメリカ合衆国に 48 名
と 24 名、2 月にはシンガポールに 14 名を派遣し交流しました。3 月には本校の語学研修としてオースト
ラリアのカノボラス高校に 16 名を派遣して語学研修はもちろん、体験授業や文化交流を行いました。ま
た、11 月にモンゴルの高校生 90 名、3 月には 46 名のアメリカ合衆国の高校生を受け入れ、特別授業や東
日本大震災に関するシンポジウムなど様々な文化交流を行いました。

6) 課外教育・部活動

軟式野球部、女子テニス部、空手道部が茨城県で優勝しました。陸上競技、女子テニス・ソフトテニ
ス、バレー、軟式野球、相撲の各部が茨城県体育協会の強化事業部に指定され、活躍しています。

大学との連携の充実

5 月に実施した 1 年生対象の白山キャンパスでの大学見学会は、大学の先生による模擬授業（講演会）本
校 OB 大学生の体験談・講話、キャンパス内見学と充実した内容になっています。これは附属校生であるとの
自覚を高め、早い時期に東洋大学を意識することで将来の目標設定に大きく寄与しています。また、「現代学
生百人一首」、「井上円了が志したものは」等の大学主催のコンテストに積極的に参加し成果を上げていま
す。さらに、経済学部等と PC による事前問題演習を実施し、基礎力を確実にすると同時に、大学生としての
意識を高めるよい刺激となっています。3 月に実施された生命科学研究科主催のシンポジウムに本校の科学
同好会がポスター（英文）発表に参加するとともに、知的交流会では東日本大震災に関するプレゼンを英語
でする等、大学の研究活動にも積極的に参加しました。PTA 支部のほとんどが企画する大学キャンパス見学
では、「将来自分の子供たちがどういう教育環境で学ぶのか」を実際に体験でき、多くの保護者が参加してい
ます。

施設設備

創立 50 周年事業として施設設備の充実を計画中です。

(5) 京北高等学校の事業概要

教育活動

【新生京北を創造する「Kプロジェクト」】

将来の進路そして個々人の能力や役割を見つける大切な高校時代、自然豊かな東洋大学赤羽台キャンパスに於いて、安心して自分探しに集中できる環境を整備し、その中で学習習慣の獲得・学習方法の会得を目指す教育を実践しています。新生京北の教育プログラムは、自学自習に向かうプロセスを追った精選されたシラバスとカリキュラムに加え、最新の教育システムも有効に活用して、生徒たちの可能性を伸ばすための教育「Kプロジェクト5」を着実にを行っています。

1) Project 1 グローバル社会に適応した教育の実施

英語だけに偏らない、総合的学力を背景としたコミュニケーション能力の育成を目指しています。「国際力」の原点は日本文化を発信できる能力と位置づけ、語学力プラス一般常識、そして実技科目や芸術にも真摯に向き合わせ感性溢れる学習を心がけています。

2) Project 2 大学進学実績の躍進

難関大学への進路実現を可能にする新しい教育システムで、「授業・講習・補習」を合わせると年間学習時間は 1,000 時間超となります。またチューター制を取り入れた Web 学習は、生徒一人ひとりが ID とパスワードを持ち、学校でも自宅でもいつでも自由に勉強できる画期的な学習システムです。授業の予習・復習に連動しているだけでなく、大学受験の予備校講座や英検対策講座も学習できます。

3) Project 3 高大連携の教育

大学生生活の先取りを体感できる「学部訪問」「“学び”ライブ」、そして留学生との交流プログラム「Let's Chat」などを行事化しています。東洋大学の総合スポーツセンターを利用した部活も好評で、50m の温水プールは高校では味わえない醍醐味があります。

4) Project 4 キャリア教育の体系的実施

自分力・社会力・人間力の育成を土台として、「人間関係形成能力」「意思決定能力」「情報活用能力」「将来設計能力」の 4 能力の獲得を目指しています。

5) Project 5 文武両道教育の実施

全国大会常連の部活動から仲間との関わりの中で社会力を育む楽しい部活動まで、多種多様な部活動を配置しています。ボランティアの芽も育てています。

安心・安全な学校への取り組み

教育内容はもちろんですが、生徒や保護者にとって一番大切なことは安心して学校に通えることだと確信しています。人と人との絆を大切に温かみのある教育環境、そして東日本大震災の教訓を生かしての危機管理体制など、あらゆる意味で「安全な学校」作りに取り組んでいます。

進路の状況

2012 年度の卒業生は 157 名です。大学合格者数は、早稲田 1、東京理科 3、青山 3、立教 5、明治 4、中央 3、法政 3、学習院 3、成城 1、明治学院 2 等の合格者数を出しています。因みに東洋大学には 16 名、日本大学には 13 名が合格しています。

(6) 京北中学校の事業概要

教育活動

法人合併に伴い、学校法人東洋大学の設置校となった本校は、赤羽台に教育の場を移し、新しい学校づくりをはじめました。入試基準の見直しにより、これまでよりも高い学力をもつ生徒を受け入れ、中高一貫特進コースを新設しました。新しい京北中学校のスタートです。

1) 学習指導

国語の授業を「文法」と「読解」の二分野に分け、それぞれ授業と考査を行うなど、学習効率を高めるため授業構成を変更しました。また、前年に続き補習講習システム「ASP（アフタースクールプログラム）」の整備をはかりました。これは基礎学力の定着が不十分な生徒のフォローアップをはかるとともに、学習に取り組む姿勢を育てるのに有効でした。次年度には、特進コース一期生が3年生になります。高校との接続を上手にはかり、実質のある6カ年一貫教育の構築をはかっていきます。

2) 進路指導

進学指導検討会を初めて試験的に実施しました。実力テストの結果を分析し、今後の指導計画に役立てていきます。次年度より、中高全学年で実施する予定です。

3) 生徒指導

昨年度に続き、他者との関係性のなかで、自尊感情を育てることを目標に取り組みました。PA（プロジェクトアドベンチャー）プログラムを導入し、課題解決を通して人間関係の向上を目指しました。このほかにも、地域清掃活動への参加など、社会のなかでの自分の果たすべき役割を自覚する活動に取り組みました。今後も、「問題行動がおきてからの対応」ではなく、「予防的な観点からの指導」に取り組んでいきます。

4) 課外活動

部活動では、剣道部が東日本大会でベスト8、都大会で優勝などの輝かしい実績を上げました。また、バスケットボール部も強豪校として活躍しています。

5) 学校安全対策

6月に実施している「防災の日」の活動をさらに充実させました。本年度は、PC教室を使つての帰宅経路確認、近隣避難場所までの実踏に加え、赤羽消防署の協力の下、D級簡易ポンプ・消火器を使用しての消火訓練、煙が充満した部屋からの脱出訓練を行いました。また、1号館1階に備蓄倉庫が増設され、食料等備蓄品を充実させました。

6) 異文化体験旅行

7、8月に京北三校合同企画「異文化体験旅行（オーストラリア）」が実施されました。「ひと家庭にひとりステイ」という方針の下、異文化理解のためのプログラムに取り組みました。

大学との連携の充実

中学校3学年では、本年度で12年目となる「川越キャンパス訪問」を実施しました。3グループに分かれ、それぞれ実験室を訪ねました。大学教育の実際を見て、理科の学習を頑張る生徒が多数でできました。また、6月には「板倉キャンパス訪問」を新設しました。

施設設備

赤羽台校地3号館は、日当たりも良く、緑深い落ち着いた環境にあります。生徒・保護者からも好評を得ています。

(7) 京北学園白山高等学校の事業概要

教育活動

1) 探求型学習 プロジェクト・ベース学習 1年

生徒が積極的に参加できる授業の構築を目指した新しい教育の一つで、アメリカのチャータースクールで実施されている学習方法を取り入れています。具体的には自らテーマとゴールを定め、その追究のプロセスを体験学習や問題解決学習によって構成し、プレゼンします(毎年、公開授業「白山プレゼンター」)。生徒の意欲を高める授業を進めています。

2) 課題研究 2・3年

1年次のプロジェクト・ベース学習の発展として、2、3年次に課題研究に取り組んでいます。1年生で学んだレポートの書き方やインターネットを活用した調査、図書館での資料の調達方法などについての学習をさらに発展させていきます。商業科はもちろん、国語科・地歴科・英語科など各分野からひとつの課題に対してアプローチをし、総合的な問題解決能力を育成しています。

3) 情報教育

情報社会のなかで起こる社会問題と可能性を踏まえ、著作権や知的所有権、プライバシー保護、セキュリティ管理など社会的なルールの内り方や動向について学びます。また私たちの社会の内り方や倫理的な問題も研究しています。最新のパソコン教室があり、充実した環境の中でスキルを高めています。

4) 表現教育

自ら学ぶ意欲や、自分を大切にする自尊感情の育成は、何事にも通じる大事な能力です。表現教育では、授業を通して教師も生徒も自分らしい持ち味が出せるよう、一方的ではなく、生徒の「今」と教師の「今」が絡み合う人間関係の中で、自ら考え、表現する能力を養っています。

5) 資格取得

簿記検定・情報処理検定・英語検定・漢字検定・数学検定などの検定にチャレンジしています。毎年各教科・各学年で目標を定め、合格に向けて取り組んでいます。放課後や長期休暇中にも各検定の講習を実施し、全力でサポートしています。

6) 土曜授業とキャリア教育

土曜日は、「一般授業」の他に、キャリアアップのための進路ガイダンス、進路講演会、実力テストなど「特別授業」も行っています。毎年、四年制大学に6~7割の生徒が進学しています。

7) 朝学習

1年から3年まで国語・数学・英語の3教科で朝学習を行っています。

大学との連携の充実

1年生が白山での「オープンキャンパス」に参加しています。また、「井上円了作文コンクール」や生命科学部主催の「私が考える食育作文コンテスト」に応募しています。「Let's Chat!」と称して、土曜日の午後、東洋大学で学ぶ留学生と本校の生徒が交流しています。授業とは違ってテキストのない、フリーの英会話です。

(8) 京北幼稚園の事業概要

保育活動

1) 保育の展開

本園がめざす保育を根底に、自由な活動とクラスでまとまって行う活動の組合せによる保育を続けています。各クラスとも成長段階にふさわしい年間・学期・月間・週間のカリキュラム（指導目標）を設定して、ステップバイステップを基本に取り組みました。2012年度は、各年齢1クラス編成で、年少は35名、年中は35名、年長は36名、合計106名が在籍して、3月には年長36名が卒園しました。文京区内の私立幼稚園の中では中規模の幼稚園で、各クラス主・副担任の2名制で、保育準備から保育活動の分担、毎日の反省など主・副担任間で十分な話し合いを行った上で展開しています。園全般の教務および各クラス担任へのアドバイスや指導は主任が担当し、園の運営、施設管理などは、園長、主任を中心に法人と相談、助言を受けて実施しています。

2) 本園を取り巻く環境

閑静な住宅地の中にあり、園舎内は採光をふんだんに取り入れ、木材を随所に使用して木のぬくもりに安全性を加味することによって、園児が安心して過ごせるように配慮してあります。また、保育室内のインテリアや装飾も教員の自作で、心休まる暖かな雰囲気をつくれるよう努めています。

3) 大学との連携の充実

今年度はライフデザイン学部生活支援学科子ども支援学専攻の3年生に対して、幼稚園の様子と実習に向けての注意事項の講義を主任が行った。また、学生達が制作した人形劇を園で上演し学生と園児の交流をはかりました。

4) 研修の充実

教員の研修活動への取り組みは、園児の夏休み中には教員各自の関心のある研修に参加をし、報告書の提出を義務づけています。また、第3保育期中には、文京区私立幼稚園連合会主催の研修会に教員全員で参加をしました。これらを通して常に保育内容や技術のレベルアップを心掛けており、全力投球の保育に対して保護者の方々から厚い信頼を得ています。

園の運営

法人合併により昨年度から学校法人東洋大学の設置する幼稚園となり、管理運営に関しては、法人の担当部署と綿密な連絡を取り幼稚園の運営に遅滞がないように努めました。保育に関しては、経営母体が変わっても教員の経験と保護者の要望を生かした保育を展開しています。

施設設備

設備、器具の老朽化が著しい物については法人に要請して更新や新設を行いました。具体的には、年少組保育室の手洗い場の改善、園庭側の老朽化した手すりの改修、ホールに大型スクリーン、玄関の扉にオートロックの設置、園児用各種備品の更新などを行いました。

(9) 学校法人東洋大学の事業概要

格付の取得

学校法人東洋大学は、2013年1月16日に、株式会社日本格付研究所(JCR)より、5年間連続で長期発行体格付の「AA」(ダブルAフラット)の格付を取得し、また格付の見直しは、「安定的」とされました。「AA」は、20段階ある格付の上から3番目であり、債務履行の確実性が非常に高いとされているもので、格付事由として、安定した志願動向や過年度の学費改定効果などを受けて、学納金を中心とする帰属収入は底堅く推移している、白山地域への集約化と特色ある郊外の学部展開、一定水準の帰属収入の確保、安定した帰属収支差額や充実した運用可能資産による良好な財政基盤の維持、などが挙げられています。「AA」の評価は、学校法人の信用力、健全な財務体質及び大学の教育・研究・社会貢献への取り組みが評価されたもの、と考えておりますが、本法人は、この格付に安住することなく、創立125周年を機会に、今後とも、良質な教育の提供、先進的かつ高度な研究の推進、知的成果の社会への還元を通じて、大学の社会的責任を果たして行きます。

創立125周年記念祭典

1) ホームカミングデー

2012年11月23日、白山キャンパスにて創立125周年記念祭典・第15回ホームカミングデーが行われ、約1,100名の参加者が集いました。今年は大学が125周年ということで、卒業生だけでなく、在学生・教職員・近隣の方も含めて125周年を祝うという趣旨から125周年記念祭典として例年の講演会と懇親会に加えて学生参加による展示企画や記念コンサートなども併せて開催しました。

2) 川越キャンパスホームカミングデー

2012年6月23日、川越キャンパスホームカミングデー・連合育成会大会が開催され、多くの卒業生が集いました。この催しは東洋大学創立125周年記念の一環として行われたものです。大学主催のホームカミングデーは白山キャンパスで毎年開催されていますが、川越キャンパスで学んだ卒業生の方々に、川越版ホームカミングデーとして、川越キャンパスを見ていただき、在校生と交流する機会の場としてこのホームカミングデーが開催されました。

3) ホームカミングデー in 板倉 国際地域学部・生命科学部合同「板倉大同窓会」

2012年12月15日板倉キャンパスにおいて、ホームカミングデー in 板倉「板倉大同窓会」を開催しました。この「板倉大同窓会」は本学創立125周年を迎えた本年、周年記念事業の一環として国際地域学部・生命科学部合同での初めての開催となり、1997年開設の板倉キャンパスから巣立った卒業生とその家族、教職員約450名が集いました。

災害への備え

1) 白山キャンパス総合防災訓練

2012年6月29日、白山キャンパスにて総合防災訓練を実施しました(参加者約380名)。今回の訓練は、震度6強以上の地震発生を想定し行われました。午前11時50分、地震発生を知らせる校内放送が流れた後、緊急対策本部と自衛消防隊本部が設置され、白山キャンパス職員・警備員で組織する自衛消防隊を中心に、地震発生時の初動対応、避難誘導などのシミュレーションを行いました。本学では引き続き、随時、各キャンパスにて防災訓練を行い、非常時における迅速な対応および被害の軽減を図るよう、防災力の向上に努めていきます。

2) 緊急情報の伝達

東洋大学では、2012年7月17日よりTwitter(ツイッター)の運用を開始しました。Twitterを利

用することで、本学学生や保護者の皆様、および教職員に対し、「緊急情報」の伝達を正確かつ迅速に配信することを目的としています。

3) 東洋大学サバイバルカード

「東洋大学サバイバルカード」は、大規模地震に対応した携帯用の防災マニュアルで、学生に配布しています。地震・災害時に取るべき行動や判断基準が具体的に記されているものです。

4) 防災備蓄

各キャンパスでは、防災備蓄品の管理に努めています。非常時に帰宅困難となった学生のための飲料水、食糧のほか、簡易トイレや簡易寝袋等を備蓄しています。

5) イーバックチェア（階段避難車）

高層建物が存在する白山キャンパスには、イーバックチェアを設置しています。イーバックチェアは、地震、火災、エレベーター等が使用出来ない状況において歩行困難な方を迅速、安全かつ容易に、階段から階段へと避難させることができる避難器具です。また、平坦なフロアに到達した後は補助輪をおろすことにより、乗り換えることなく車椅子と同じように、迅速、安全に搬送ができます。

教育環境の整備

1) 白山キャンパスの整備

白山キャンパスにおいて、情報環境の学生サービス向上を目指し、また、白山第2キャンパスから白山キャンパスへの移転に伴う学生数増に対応するため、125周年記念館竣工後に既存校舎改修（図書館拡張、3・5号館事務室を教室へ改修）を行い、あわせて、情報関連設備（PC）の整備を行いました。

2) 川越キャンパスの整備

川越キャンパスに、バイオ・ナノエレクトロニクス研究センター棟および体育会川越合宿所D棟・E棟を建設しました。バイオ・ナノエレクトロニクス研究センター棟（BNC）は既存の建物に加え、新築工事となり、国際産学連携先端教育研究の拠点として、さらに大学院教育のより一層の強化を目的としています。また、体育会川越合宿所D棟（ラグビー部食堂・浴室棟）・E棟（陸上競技部合宿所）においては、学生スポーツを施設面から整備し、拡充を図りました。

3) 合宿所の整備

板倉キャンパスに、女子サッカー部合宿所を建設しました。この合宿所の完成に伴い、2013年4月からは本学体育会サッカー部女子部の活動が本格的にスタートし、板倉キャンパスサッカーグラウンドでも多くの公式戦が開催される予定です。

業務改革・業務環境改善

業務の平準化や効率化といったことを念頭に、各種データについては、発生源での入力・管理の徹底を前提とした業務の簡素化とペーパーレス化を図っています。すでに導入済みの新入試システム、卒業生管理システム、新人事システムに続き、2012年度においては、新会計システム、出張管理システム、e購買システム、新学務システムを導入し、業務改革、経費削減を図っています。

施設等の状況

1) 現有施設設備の所在地等の説明

キャンパス名等	所在地	面積		摘要
		土地(m ²)	建物(m ²)	
白山	東京都文京区 白山 5-28-20	34,278.43	107,121.79	文学部・経済学部・経営学部・法学部・社会学部 文学研究科・社会学研究科・法学研究科・経営学研究科・経済学研究科・福祉社会デザイン研究科 通信教育部
白山第2	東京都文京区 白山 2-36-5	18,571.36	19,044.18	国際地域学部 国際地域学研究科 法務研究科(法科大学院)
朝霞	埼玉県朝霞市 岡 48-1	105,246.00	44,238.81	ライフデザイン学部 福祉社会デザイン研究科
川越	埼玉県川越市 鯨井 2100	286,981.00	76,302.25	理工学部(工学部)・総合情報学部・工学研究科 学際・融合科学研究科
板倉	群馬県邑楽郡板倉町 泉野 1-1-1	331,963.00	34,391.94	生命科学部 生命科学研究科
大手町サテライト	東京都千代田区 大手町 2-2-1 新大手町ビル 1F	賃借	床面積 235.22 m ²	経済学研究科公民連携専攻
附属姫路高等学校	兵庫県姫路市 書写 1699	106,619.79	16,882.33	
附属牛久高等学校	茨城県牛久市 柏田町 1360-2	71,011.69 (借地含む)	21,523.07	
赤羽台	東京都北区 赤羽台 1-7-12	14,137.34	8,901.55	京北高等学校、京北学園白山高等学校、京北中学校
総合スポーツセンター	東京都板橋区 清水町 92-1	20,706.49	16,331.69	
京北幼稚園	東京都文京区 本駒込 2-13-5	1,518.14	739.39	

2) 主な施設設備の取得又は処分計画およびその進捗状況

ア) 取得施設

建物名等	延床面積(m ²)	概要	用途
白山キャンパス 125周年記念館建築	19,518.02 (内訳) 8号館 18,353.84 9号館 1,164.36	8号館 鉄筋コンクリート造 (一部鉄骨造) 地上8階 地下1階建 9号館 鉄筋コンクリート造 地上2階 地下1階建	教室、研究室、共同研究室、 自習室、ホール、食堂、会議 室、役員室、事務室
川越キャンパス バイオ・ナノエレクトロニクス研究センター 棟建築	3,544.46	鉄筋コンクリート造 地上4階建	各種実験室、事務室等
川越キャンパス 体育会川越合宿所D棟建築	240.20	鉄筋コンクリート造 地上2階建	ラグビー部食堂・浴室棟
川越キャンパス 体育会川越合宿所E棟建築	2,539.01	鉄筋コンクリート造 地上4階建	陸上競技部合宿所
板倉キャンパス サッカー部女子部門合宿所 建築	1,494.84	軽量鉄骨造 地上2階建	サッカー部女子部門合宿所

イ) 処分施設

建物名等	延床面積(m ²)	概要	摘要
川越キャンパス 流体工学実験棟	425.45	鉄骨造 地上1階建	平成24年9月 解体

ウ) 進行中施設

建物名等	地名地番	敷地面積(m ²)	計画概要	工期(予定)
附属姫路高等学校 創立50周年記念 校舎(仮称)建築	兵庫県姫路市 書写1699	50,219.86	記念校舎 地上5階建 9,784.69 m ² 職員室・図書室棟 地上2階建 1,330.14 m ² 講堂兼体育館 地上2階 927.66 m ² 延床面積 12,042.49 m ²	平成24年7月~ 平成26年10月

入学試験の状況

一般入試 学部（第1部）

（単位：人）

学部	志願者数	受験者数	合格者数
文学部	11,326	10,911	2,529
経済学部	8,576	8,347	2,016
経営学部	8,944	8,725	1,850
法学部	6,944	6,699	1,731
社会学部	9,061	8,815	1,879
理工学部	7,280	7,119	2,586
国際地域学部	6,894	6,711	1,500
生命科学部	2,624	2,543	743
食環境科学部	1,835	1,763	486
ライフデザイン学部	4,420	4,308	1,147
総合情報学部	1,810	1,763	690
計	69,714	67,704	17,157

一般入試 学部（第2部）

（単位：人）

学部名	志願者数	受験者数	合格者数
文学部	334	312	195
経済学部	391	369	169
経営学部	272	258	124
法学部	298	286	131
社会学部	264	248	212
計	1,559	1,473	831

第1部・第2部合計	71,273	69,177	17,988
-----------	--------	--------	--------

大学院（博士前期・修士課程）

（単位：人）

研究科名	志願者数		受験者数		合格者数	
	10月入学	4月入学	10月入学	4月入学	10月入学	4月入学
文学研究科	-	40	-	39	-	33
社会学研究科	-	20	-	18	-	12
法学研究科	-	22	-	20	-	15
経営学研究科	0	62	0	58	0	34
工学研究科	11	76	10	74	7	70
経済学研究科	2	22	2	20	2	20
国際地域学研究科	9	35	9	33	6	18
生命科学研究科	0	52	0	49	0	33

福祉社会デザイン研究科	0	31	0	31	0	25
学際・融合科学研究科	0	26	0	26	0	26
計	22	386	21	368	15	286

大学院（博士後期課程）

（単位：人）

研究科名	志願者数		受験者数		合格者数	
	10月入学	4月入学	10月入学	4月入学	10月入学	4月入学
文学研究科	-	13	-	12	-	11
社会学研究科	-	4	-	3	-	2
法学研究科	-	1	-	1	-	1
経営学研究科	0	2	0	2	0	1
工学研究科	1	7	1	7	1	7
経済学研究科	-	2	-	2	-	2
国際地域学研究科	0	2	0	2	0	2
生命科学研究科	0	2	0	2	0	2
福祉社会デザイン研究科	-	10	-	10	-	8
学際・融合科学研究科	1	1	1	1	1	1
計	2	44	2	42	2	37

専門職大学院

（単位：人）

研究科名	志願者数	受験者数	合格者数
法務研究科	42	40	20

附属高等学校等

（単位：人）

学部名	志願者数	受験者数	合格者数
附属姫路高等学校	3,292	3,272	3,261
附属牛久高等学校	1,970	1,954	1,719
京北高等学校	128	124	118
京北学園白山高等学校	109	100	97
京北中学校	59	57	54
京北幼稚園	60	60	44
計	5,618	5,567	5,293

就職の状況

業種別進路状況 (平成 25(2013)年 3 月 学部 1 部・2 部卒業生)

(単位:人)

業種	人数	業種	人数
農業・林業・漁業・鉱業	10	学術研究	160
建設業	337	飲食店・宿泊業	121
製造業	533	生活関連サービス業・娯楽業	224
電気・ガス・熱供給・水道業	16	医療・福祉	340
情報通信業	424	教育・学習支援業	238
運輸業	133	複合サービス事業	45
卸売・小売業	1,084	サービス業	154
金融・保険業	421	公務員	268
不動産業	201	その他	69

上位就職先一覧 (平成 25(2013)年 3 月 学部 1 部・2 部卒業生)

(単位:人)

順位	企業名等	男	女	計
1	警視庁	30	3	33
2	日本郵便(株)(日本郵政グループ)	17	11	28
3	(株)ベネッセスタイルケア	5	16	21
	東日本旅客鉄道(株)(JR東日本)	14	7	21
5	(株)エイチ・アイ・エス	5	12	17
	埼玉県教育委員会	5	12	17
7	(株)AOKI(AOKI・ORIHICA)	7	9	16
	東京都教育委員会	5	11	16
9	(株)京葉銀行	7	6	13
	大和ハウス工業(株)	10	3	13
11	明治安田生命保険(相)	0	12	12
12	(株)ベルク	7	4	11
	(株)レオパレス21	4	7	11
	埼玉県警察本部	11	0	11
	千葉県教育委員会	6	5	11
	東京消防庁	11	0	11
17	(株)メイテック	10	0	10
	(株)夢真ホールディングス	7	3	10
	(株)臨海セミナー	5	5	10
	積水ハウス(株)	8	2	10
	防衛省 陸上自衛隊	10	0	10
22	(株)常陽銀行	2	7	9
	千葉県警察本部	8	1	9

24	(株)サンドラッグ	3	5	8
	(株)セブン - イレブン・ジャパン	6	2	8
	(株)ニチケアパレス	4	4	8
	(株)三菱東京UFJ銀行	0	8	8
	(株)千葉銀行	2	6	8
	(株)大塚商会	7	1	8
	トランス・コスモス(株)	2	6	8
	三井不動産リアルティ(株)	4	4	8
32	(株)ファミリーマート	4	3	7
	(株)フィナンシャル・エージェンシー	4	3	7
	(株)マイナビ	3	4	7
	(株)やさしい手	1	6	7
	住友生命保険(相)	0	7	7
	城北信金	5	2	7
	日本生命保険(相)	0	7	7

3. 財務の概要

(1) 決算の概要

貸借対照表の状況

【資産の部】

2012年度末の資産総額は、2,106億5,800万円で前年度末に比べ100億900万円増加しました。特に、有形固定資産は、白山キャンパスに125周年記念館を、川越キャンパスにバイオ・ナノエレクトロニクス研究センター棟、体育会川越合宿所D棟(ラクビー部食堂・浴室棟)、体育会川越合宿所E棟(陸上競技部合宿所)を、板倉キャンパスにサッカー部女子部門合宿所を建築したことや、教育・研究のための機器備品や図書を購入および公用車の購入などにより大幅に増加しました。その他の固定資産は、創立125周年記念館建築に伴い創立125周年施設設備引当特定資産を12億円、附属姫路高等学校で創立50周年記念校舎(仮称)建築に伴い校舎建設準備引当特定預金を4億円、それぞれ取り崩しましたが、大学で将来計画施設設備引当特定資産として30億円を、第3号基本金(奨学基金)引当特定資産に20億円をそれぞれ繰り入れていることなどにより31億7,300万円増加して、384億9,100万円となりました。流動資産は現金預金が7億2,500万円増加したことなどにより301億1,900万円となりました。

【負債の部】

負債総額は206億9,200万円で前年度末に比べ23億1,400万円増加しました。このうち21億3,100万円が建物建築や既存校舎改修工事、機器備品取得をはじめとする未払金で、流動負債としても短期借入金などが減少したものの24億8,700万円増加し117億8,500万円となりました。一方、固定負債は長期借入金と退職給与引当金が1億7,300万円減少し、89億700万円となりました。

【基本金の部】

基本金は106億7,200万円増加して2,236億3,100万円となりました。このうち、第1号基本金は建物建築や機器備品などの施設設備充実と借入金返済などにより71億5,200万円増加して2,033億2,800万円となり、第2号基本金は大学において12億円を、附属高校で4億円を第1号基本金に振り替えた一方、将来の校舎等施設・設備の整備充実準備として30億円を組み入れたことや、附属牛久高等学校で校舎建設準備として1億2,000万円増加したことにより94億6,000万円となりました。さらに第3号基本金は基金の運用果実を新たな奨学金の資金とするため20億円増加し88億1,000万円となりました。

【消費収支差額の部】

資産総額2,106億5,800万円に対して、負債総額が206億9,200万円に、基本金が2,236億3,100万円であったため、消費収支差額はマイナス336億6,500万円となりました。なお、今年度末における減価償却累計額の合計は643億9,800万円、基本金の未組入額は22億6,200万円となっています。

収支計算書の状況

ア) 資金収支について

【収入の部】

前年度繰越支払資金を除いた当年度収入は440億8,700万円で、主な項目は学生生徒納付金収入が314億2,600万円、入学検定料などの手数料収入が23億2,700万円、寄付金収入が8億5,000万円、補助金収入が37億4,100万円、各種引当特定資産からの繰り入れなどその他の収入が50億2,700万円となっています。

【支出の部】

次年度繰越支払資金を除いた当年度支出は433億6,200万円で、主な項目は人件費支出が184億9,100万円、教育活動・研究活動・学生生活支援や施設維持などの教育研究経費支出が77億5,200万円、125周年記念館やバイオ・ナノエレクトロニクス研究センター 棟、体育会川越合宿所D棟・E棟、サッカー部女子部門合宿所建設などの施設関係支出が78億2,400万円、教育や研究に要する機器備品や図書などの設備関係支出が22億9,400万円となっています。また、各種引当特定資産への繰り入れなどの資産運用支出が62億8,200万円、さらにその他の支出として24億6,800万円のうち主なものは前年度末未払金支払支出で12億1,700万円となっています。

イ) 消費収支について

【帰属収入の部】

帰属収入は学生生徒納付金や補助金など債務のない収入で399億4,400万円となりましたが、前年度は京北学園との合併に伴う継承分が20億円程含まれていたこともあり、22億4,000万円の減少となりました。

【基本金組入額の部】

基本金組入額は106億7,200万円で、そのうち第1号基本金へは建物建築や借入金返済などにより71億5,200万円を、第2号基本金へは、大学で新たに30億円を組み入れる一方で12億円を、附属高校で4億円をそれぞれ第1号基本金に振り替えた差し引き14億円と、附属高校での組み入れ1億2,000万円とをあわせた15億2,000万円を、第3号基本金へは奨学基金として20億円を組み入れています。

【消費収入の部】

帰属収入から基本金組入額を差し引いた額で、292億7,200万円となりました。

【消費支出の部】

人件費や教育研究経費などの消費支出は322億4,900万円となりました。このうち41億7,300万円は減価償却によるものです。

【消費収支差額の部】

消費支出が消費収入を上回った結果、29億7,700万円の消費支出超過となり、この結果、累積の翌年度繰越消費収支差額はマイナス336億6,500万円（消費支出超過）となりました。

(2) 経年比較

貸借対照表

(単位：百万円)

	2008年度末	2009年度末	2010年度末	2011年度末	本年度末
固定資産	147,961	153,967	162,810	171,649	180,539
流動資産	30,202	30,042	27,900	29,000	30,119
資産の部合計	178,163	184,009	190,710	200,649	210,658
固定負債	11,378	10,577	9,872	9,080	8,907
流動負債	11,668	10,497	9,457	9,298	11,785
負債の部合計	23,045	21,074	19,329	18,378	20,692
基本金の部合計	174,027	183,805	200,987	212,959	223,631
消費収支差額の部合計	18,910	20,870	29,606	30,688	33,665
負債の部、基本金の部及び 消費収支差額の部合計	178,163	184,009	190,710	200,649	210,658

収支計算書

ア) 資金収支計算書

(単位：百万円)

収入の部	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	本年度
学生生徒等納付金収入	28,290	30,277	30,555	31,287	31,426
手数料収入	2,280	2,374	2,236	2,121	2,327
寄付金収入	195	133	255	1,932	850
補助金収入	3,111	2,975	3,427	3,767	3,741
資産運用収入	557	500	434	425	415
資産売却収入	0	0	0	577	2
事業収入	243	242	277	288	282
雑収入	899	741	861	879	820
前受金収入	8,027	7,321	7,334	7,252	7,560
その他の収入	27,522	5,494	6,561	7,824	5,027
資金収入調整勘定	8,353	8,793	8,351	8,442	8,363
前年度繰越支払資金	29,723	28,508	28,637	26,185	27,280
収入の部合計	92,494	69,773	72,225	74,095	71,367

支出の部	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	本年度
人件費支出	16,514	16,831	17,496	18,400	18,491
教育研究経費支出	6,587	6,851	6,687	7,129	7,752
管理経費支出	1,465	1,707	1,523	1,543	1,761
借入金等利息支出	116	88	62	28	6

借入金等返済支出	770	720	879	513	113
施設関係支出	12,644	4,545	9,492	8,333	7,824
設備関係支出	1,533	2,046	1,804	1,673	2,294
資産運用支出	24,512	7,440	6,738	8,376	6,282
その他の支出	2,511	3,215	2,889	2,314	2,468
資金支出調整勘定	2,668	2,307	1,531	1,494	3,629
次年度繰越支払資金	28,508	28,637	26,185	27,280	28,005
支出の部合計	92,494	69,773	72,225	74,095	71,367

イ) 消費収支計算書

(単位：百万円)

消費収入の部	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	本年度
学生生徒等納付金	28,290	30,277	30,555	31,287	31,426
手数料	2,280	2,374	2,236	2,121	2,327
寄付金	253	171	295	2,891	910
補助金	3,111	2,975	3,427	3,767	3,741
資産運用収入	557	500	434	425	415
資産売却差額	85	6	0	525	3
事業収入	243	242	277	288	282
雑収入	901	754	862	880	840
帰属収入合計	35,720	37,299	38,084	42,184	39,944
基本金組入額合計	14,308	9,985	17,182	11,972	10,672
消費収入の部合計	21,412	27,315	20,902	30,212	29,272

消費支出の部	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	本年度
人件費	16,224	16,621	17,314	17,933	18,404
教育研究経費	10,312	10,501	10,408	11,205	11,813
管理経費	1,523	1,768	1,598	1,836	1,880
借入金等利息	116	88	62	28	6
資産処分差額	173	504	255	292	145
消費支出の部合計	28,346	29,482	29,638	31,294	32,249
当年度消費収支超過額	6,934	2,167	8,736	1,082	2,977
前年度繰越消費収支超過額	16,088	18,910	20,870	29,606	30,688
基本金取崩額	4,112	207	0	0	0
翌年度繰越消費収支超過額	18,910	20,870	29,606	30,688	33,665

(3) 主な財務比率比較

(単位：%)

比率名	算式	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	本年度
帰属収支差額比率	$\frac{\text{帰属収入} - \text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	20.6	21.0	22.2	25.8	19.3
消費収支比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{消費収入}}$	132.4	107.9	141.8	103.6	110.2
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒納付金}}{\text{帰属収入}}$	79.2	81.2	80.2	74.2	78.7
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	45.4	44.6	45.5	42.5	46.1
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	28.9	28.2	27.3	26.6	29.6
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	4.3	4.7	4.2	4.4	4.7
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	258.8	286.2	295.0	311.9	255.6
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{自己資金}^1}$	14.9	12.9	11.3	10.1	10.9
自己資金構成比率	$\frac{\text{自己資金}}{\text{総資金}^2}$	87.1	88.5	89.9	90.8	90.2
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	97.9	98.6	99.5	99.8	99.0

1 自己資金 = 基本金 + 消費収支差額

2 総資金 = 負債 + 基本金 + 消費収支差額

(4) その他

有価証券の状況

ア) 満期保有目的の債券で時価があるもの

(単位：千円)

種類		簿価	時価	差額
時価が貸借対照表 計上額を超えるもの	国債	12,837,227	13,597,105	759,878
	外国債	46,254	54,021	7,767
	小計	12,883,481	13,651,126	767,645
時価が貸借対照表 計上額を超えないもの	国債	711,944	705,590	6,354
	外国債	1,304,864	1,139,823	165,041
	小計	2,016,808	1,845,413	171,395
合計		14,900,289	15,496,539	596,250

イ) その他の有価証券で時価があるもの

(単位:千円)

種類		簿価	時価	差額
時価が貸借対照表 計上額を超えるもの	公社債投信	158,028	158,088	60
	外国債(仕組債)	98,420	100,770	2,350
	上場投資信託	166,681	213,000	46,319
	投資信託(公募)			0
	投資信託(私募)	314,617	453,400	138,783
	小計	737,746	925,258	187,512
時価が貸借対照表 計上額を超えないもの	公社債投信			0
	外国債(仕組債)			0
	上場投資信託	554,144	447,300	106,844
	投資信託(公募)	1,292,155	1,218,803	73,352
	投資信託(私募)			0
	小計	1,846,299	1,666,103	180,196
合計		2,584,045	2,591,361	7,316

借入金の状況

借入先	借入残高	利率	返済期限	担保
日本私立学校振興・共済事業団	101,520千円	3.20%	平成28(2016)年9月20日	土地

寄付金の状況

寄付金の種類	寄付者	金額	摘要
創立125周年記念事業資金	-	809,966千円	1,980件
附属姫路高校創立50周年記念事業資金	-	8,017千円	173件
附属牛久高校創立50周年記念事業資金	-	2,701千円	127件
奨学寄付金	-	19,094千円	35件
その他の特別寄付金	-	10,361千円	10件
その他の一般寄付金	-	300千円	1件
現物寄付金	-	59,903千円	1,339件
合計		910,342千円	3,665件

補助金の状況

(単位:千円)

補助金の種類	補助金額
私立大学等経常費補助金	2,039,630
一般補助	1,586,771
特別補助	452,859

成長分野の推進と成長力強化に貢献する人材育成	25,033
社会人の組織的な受入れへの支援	58,994
大学等の国際交流の基盤整備への支援	42,375
大学院等の機能の高度化への支援	248,331
授業料減免及び学生の経済的支援体制の充実	73,750
東日本大震災に係る支援	4,376
国際化拠点整備事業費補助金（グローバル人材育成推進事業）	73,930
私立学校施設整備費補助金・私立大学等研究設備整備費等補助金	278,995
私立大学教育研究活性化設備整備費補助金	48,324
科学技術戦略推進費補助金	5,400
その他の補助金	41,599
地方公共団体等からの補助金	1,251,499
学術研究振興資金からの補助金	1,400
合計	3,740,777

関連当事者等との取引の状況

ア) 関連当事者

関連当事者との取引については、記載すべきものではありません。

イ) 出資会社

会社等の名称	事業内容	資本金等	出資割合	取引の内容	保証債務等
株式会社 キャンパスサービス	建物の警備・清掃 ・保守・管理	10,000 千円	100%	清掃・警備・設備 保守業務の委託 年間 1,356,517 千円	債務保証 なし